ISSN 1341-8548

館報 1995 44

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団ブリヂストン美術館
石 橋 財 団 石 橋 美 術 館

館報 1995 44

ANNUAL REPORT

OF BRIDGESTONE MUSEUM OF ART & ISHIBASHI MUSEUM OF ART

石橋財団ブリヂストン美術館
石 橋 財 団 石 橋 美 術 館

館報44号（1995年度）

編集・発行

石橋財団ブリヂストン美術館
〒104　東京都中央区京橋1-10-1

石橋財団石橋美術館
〒839　福岡県久留米市野中町1015

制作
エディタス

1996年11月発行

Annual Report of Bridgestone Museum of Art & Ishibashi Museum of Art
No.44 (1995)

Edited and published by

Bridgestone Museum of Art, Ishibashi Foundation
10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan

Ishibashi Museum of Art, Ishibashi Foundation
1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839, Japan

Creative direction by Editus Inc.

©1996
Bridgestone Museum of Art,
Ishibashi Museum of Art,
Ishibashi Foundation

目次　Contents

設立趣旨，機構・運営 …… 4
Brief Histories of the Museums, Organization and Management …… 5
主な記録 …… 6
ブリヂストン美術館
・特集展示 …… 6
・土曜講座 …… 8
・その他の記録 …… 9
石橋美術館
・特集展示 …… 10
・美術講座 …… 11
・その他の記録 …… 11
1995年度入場者数 …… 12
新収蔵作品　New Acquisitions …… 13
修復記録 …… 20
研究報告 …… 36
美術館案内　Guide to the Museums …… 52
石橋財団職員 …… 53

設立趣旨

ブリヂストン美術館

ブリヂストン美術館は，石橋正二郎(1889-1976)が多年にわたって蒐集愛蔵した内外の美術品を，社会公共のため，広く一般の鑑賞に供し，文化向上の一端に貢献したいとの趣旨に基づき，1952年(昭和27)1月8日，ブリヂストンビルディング竣工とともに同ビル内に開設されたものである。その後1956年(昭和31)4月に設立された財団法人石橋財団がその経営を継承し，1961年(昭和36)9月には同財団が石橋正二郎から所蔵美術品の寄贈を受けた。なお，1959年(昭和34)5月には面積が二倍に拡張されると共に，設備に大改良が加えられた。

石橋美術館

石橋美術館は，株式会社ブリヂストンの創業者・石橋正二郎が1956年(昭和31)4月26日，同社の創立25周年を記念して，社会公共の福祉と文化向上のために，郷土久留米市に寄贈した石橋文化センターの中心施設である。1977年(昭和52)，石橋正二郎の遺族の寄付により増改築が行われ，同年4月以降，久留米市の要請により，石橋財団がその経営に当たっている。

機構・運営

(1996年3月31日現在)

石橋財団

理事長　石橋幹一郎
理事　有田一寿，真藤　恒，内田　宏，石橋　寛，楠　晋次，中川　洋，大原　譲，石榑和夫
監事　亀徳正之，唐澤高美，鵜澤昌和
評議員　石橋幹一郎，鵜澤　晋，石井公一郎，小林行雄，石橋　寛，真藤　恒，高碕芳郎，有田一寿，橋口　収，高階秀爾，友部　直，喜多村禎勇，三木常正，富山秀男，纐纈教三，嘉門安雄，中川　洋，大原　譲，石榑和夫，朝比奈仙二
特別顧問　嘉門安雄

美術館運営委員会
委員長　石橋幹一郎
委員　脇田　和，高階秀爾，友部　直，鈴木健二，石橋　寛，富山秀男，嘉門安雄，中川　洋，石榑和夫

寄付助成選考委員会
委員長　有田一寿
委員　内田　宏，鵜澤昌和，友部　直，吉久勝美，加嶋昭男

常務理事　大原　譲

事務局
事務局長　朝比奈仙二

ブリヂストン美術館
館長　石榑和夫　**事務部長**　尾島　聰　**学芸課長**　宮崎克己

石橋美術館
館長　中川　洋　**事務部長**　平井麟之輔　**学芸課長**　田内正宏　**学芸課・課長**　橋富博喜

Brief Histories of the Museums

Bridgestone Museum of Art

On January 8, 1952, Shōjirō Ishibashi (1889-1976), wishing to promote cultural development in Japan, opened to the public an art gallery within the newly-completed Bridgestone Building under the name of the "Bridgestone Gallery". The works of art, both Japanese and foreign, which he had collected over the years formed the nucleus of the exhibits. In April 1956, the Ishibashi Foundation was established to take over the management of the Gallery, and in September 1961, Ishibashi donated the works in the Gallery to the Foundation. In May 1959, the Gallery was enlarged to twice its original size and entirely renovated. In January 1968, the English name was changed from the "Bridgestone Gallery" to the "Bridgestone Museum of Art".

Ishibashi Museum of Art

On April 26, 1956, in commemoration of the 25th anniversary of the Bridgestone Corporation, Shōjirō Ishibashi, the founder of the Corporation, donated the Ishibashi Cultural Center to his home town of Kurume to render a public service and promote cultural development. The Ishibashi Museum of Art (originally the Ishibashi Art Gallery) is the principal institution in the Center. In 1971, the English name was changed from the "Ishibashi Art Gallery" to the "Ishibashi Museum of Art". In 1977, the Museum building was enlarged and renovated, thanks to a contribution from the Ishibashi family, and in April of the same year the city of Kurume entrusted the Ishibashi Foundation with the management of the Museum.

Organization and Management

(As of March 31, 1996)

Ishibashi Foundation

President of the Board of Directors	Kanichirō Ishibashi				
Directors	Kazuhisa Arita	Hisashi Shintō	Hiroshi Uchida	Hiroshi Ishibashi	Shinji Kusunoki
	Yō Nakagawa	Yuzuru Ohara	Kazuo Ishikure		
Auditors	Masayuki Kitoku	Takami Karasawa	Masakazu Uzawa		
Councillors	Kanichirō Ishibashi	Susumu Uzawa	Kōichirō Ishii	Yukio Kobayashi	Hiroshi Ishibashi
	Hisashi Shintō	Yoshirō Takasaki	Kazuhisa Arita	Osamu Hashiguchi	Shūji Takashina
	Naoshi Tomobe	Sadao Kitamura	Tsunemasa Miki	Hideo Tomiyama	Kyōzō Kōketsu
	Yasuo Kamon	Yō Nakagawa	Yuzuru Ohara	Kazuo Ishikure	Senji Asahina
Special Adviser	Yasuo Kamon				

Executive Committee of the Museums					
Chairman	Kanichirō Ishibashi				
Members	Kazu Wakita	Shūji Takashina	Naoshi Tomobe	Kenji Suzuki	Hiroshi Ishibashi
	Hideo Tomiyama	Yasuo Kamon	Yō Nakagawa	Kazuo Ishikure	

Contribution Selection Committee					
Chairman	Kazuhisa Arita				
Members	Hiroshi Uchida	Masakazu Uzawa	Naoshi Tomobe	Katsumi Yoshihisa	Akio Kashima

Managing Director Yuzuru Ohara

Administration
Executive Secretary Senji Asahina

Bridgestone Museum of Art
Director Kazuo Ishikure
Administrator Satoshi Ojima Curator Katsumi Miyazaki

Ishibashi Museum of Art
Director Yō Nakagawa
Administrator Rinnosuke Hirai Chief Curator Masahiro Tauchi Curator Hiroki Hashitomi

主な記録　ブリヂストン美術館

《特集展示》

青木繁

1995年6月30日(金)－9月24日(日)
出品内容：油彩14点　水彩5点　素描3点　計22点

1.《秋の夜》/ 1902年 / 鉛筆・紙 / 14.6×19.1cm / 石橋美術館
2.《自画像》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 80.5×60.5cm / 石橋美術館
3.《輪転》/ 1903年 / 油彩・カンヴァス / 26.8×37.8cm / 石橋美術館
4.《闍威弥尼》/ 1903年 / 油彩・板 / 14.7×10.3cm / 石橋美術館
5.《自画像》/ 1903年 / 色鉛筆・紙 / 22.4×14.2cm / 石橋美術館
6.《天平時代》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 45.3×75.5cm / ブリヂストン美術館
7.《海景(布良の海)》/ 1904年 / 油彩・カンヴァス / 35.8×72.0cm / 石橋美術館
8.《海》/ 1904年 / 油彩・板 / 10.3×14.7cm / 石橋美術館
9.《農家》/ 1904年 / 油彩・板 / 23.3×33.0cm / 石橋美術館
10.《木立(森の暮色)》/ 1904年 / 油彩・板 / 33.0×23.0cm / 石橋美術館
11.《女の顔》/ 1904年 / 油彩・板(羽子板) / 32.8×9.0cm / 石橋美術館
12.《風景》/ 1904年 / 水彩・絹(扇面) / 15.6×51.2cm / 石橋美術館
13.《春》/ 1904年 / 水彩，パステル・紙 / 17.1×33.7cm / 石橋美術館
14.《丘に立つ人》/ 1904年 / 水彩・紙 / 16.2×13.7cm / 石橋美術館
15.《水浴》/ 1904年 / 水彩・紙 / 13.8×25.7cm / 石橋美術館
16.《子守》/ 1904年頃 / 鉛筆・紙 / 17.2×10.6cm / ブリヂストン美術館
17.《光明皇后》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 37.6×71.0cm / 石橋美術館
18.《大穴牟知命》/ 1905年 / 油彩・カンヴァス / 75.5×127.4cm / 石橋美術館
19.《雪景》/ 1906年 / 油彩・板 / 23.0×32.8cm / 石橋美術館
20.《狂女》/ 1906年 / 水彩・紙 / 29.1×15.5cm / 石橋美術館
21.《わだつみのいろこの宮》/ 1907年 / 油彩・カンヴァス / 180.0×68.3cm / 石橋美術館
22.《月下滞船図》/ 1908年 / 油彩・カンヴァス / 42.5×60.0cm / 石橋美術館

モンティセリ
1995年9月27日(水)－12月21日(木)
出品内容：油彩42点　水彩5点　素描1点　計48点

【雅宴画】
1.《池のほとりにて》/ 1848-52年頃 / 油彩・カンヴァス / 52.0×102.0cm
2.《田園の宴》/ 油彩・板 / 16.5×29.0cm
3.《貴婦人たちの集い》/ 油彩・板 / 39.0×85.0cm
4.《山のある風景の中の人々》/ 1865-68年頃 / 油彩・板 / 40.0×65.0cm
5.《庭園に集う白いドレスの女たち》/ 1870-72年頃 / 油彩・板 / 38.4×56.0cm
6.《デカメロンの情景》/ 1870年頃 / 油彩・板 / 45.0×72.0cm
7.《庭園に集う女，キューピッド，小姓》/ 1872-73年頃 / 油彩・板 / 42.0×65.0cm
8.《庭園の集い》/ 油彩・板 / 36.5×46.0cm
9.《社交界の集い》/ 1875-80年頃 / 油彩・カンヴァス / 50.0×100.0cm

【神話，文学，演劇をもとにした時代風俗画】
10.《鳥使いの女》/ 1863-65年頃 / 油彩・板 / 45.8×36.1cm

11.《狩猟の集まり》/ 1868-70年頃 / 油彩・板 / 45.0×77.0cm
12.《牛追い(ドン・キホーテとサンチョ・パンサ)》/ 1871年頃 / 油彩・板 / 53.5×46.0cm
13.《メフィストとファウストのいる庭園の場面》/ 1875-78年頃 / 油彩・板 / 43.0×58.0cm
14.《オペラの登場人物》/ 油彩・板 / 37.0×47.0cm
15.《貴婦人たちへの贈物》/ 油彩・板 / 39.0×58.5cm
16.《ヴェネツィアの結婚式》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 44.7×62.3cm
17.《レダ》/ 1875-80年頃/ 油彩・板 / 50.2×28.0cm
18.《水を飲む白鳥と女》/ 1875-77年頃 / 油彩・板 / 43.2×23.8cm
19.《王女と着付け係たち》/ 油彩・板 / 32.5×20.0cm
20.《猫と3人の貴婦人》/ 油彩・板 / 23.5×17.0cm

【肖像画】
21.《リュドヴィック・ミアーヌ9歳の肖像》/ 1871年頃 / 油彩・板 / 61.0×44.5cm
22.《少女の肖像》/ 1878年頃 / 油彩・板 / 40.5×32.5cm
23.《アラブ風の扮装をしたモンティセリ》/ 1882年頃 / 油彩・板 / 98.4×62.0cm
24.《自画像》/ 1879-84年頃 / 油彩・カンヴァス / 76.0×63.5cm

【風景・風俗画】
25.《収穫》/ 1866-68年頃 / 油彩・板 / 27.8×37.0cm
26.《森の中の二人》/ 1868-70年頃 / 油彩・板 / 64.0×42.0cm
27.《風景》/ 油彩・板 / 44.7×62.0cm
28.《雪の農場》/ 1870年頃 / 油彩・板 / 19.9×39.5cm
29.《林間の女たち》/ 1873-80年頃 / 油彩・板 / 50.0×90.0cm
30.《嵐を前に網をあげる漁師》/ 1874-78年頃 / 油彩・板 / 40.3×60.5cm
31.《美しい別荘》/ 1875-78年頃 / 油彩・板 / 46.6×37.0cm
32.《ガナゴビーの岩の上の木》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 44.8×34.8cm
33.《干し草刈り》/ 1880-82年頃 / 油彩・板 / 35.0×69.2cm
34.《カシスの入江》/ 1882-85年頃 / 油彩・板 / 44.7×72.5cm
35.《カシスの港》/ 1884年頃 / 油彩・板 / 35.0×55.0cm
36.《カシスの舟》/ 1884年頃 / 油彩・カンヴァス / 45.0×54.0cm
37.《森の中》/ 1885年頃 / 油彩・板 / 47.9×34.7cm

【静物画】
38.《投げ出された花》/ 1872-73年頃 / 油彩・銅板 / 32.5×41.0cm
39.《陶器壷の花》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 69.0×47.0cm
40.《花瓶の花》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 48.0×30.3cm
41.《水差しの花》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 67.0×47.0cm
42.《たおれた花瓶》/ 1875-80年頃 / 油彩・板 / 48.0×65.0cm

【水彩，素描】
43.《セレナーデ》/ 水彩・紙 / 9.4×5.4cm
44.《舟遊び》/ 水彩・紙 / 9.3×5.6cm
45.《草上の昼食》/ 水彩・紙 / 9.4×5.5cm
46.《川釣り》/ 水彩・紙 / 9.3×5.4cm
47.《17世紀の貴族》/ 水彩・紙 / 25.3×19.0cm
48.《犬を連れた貴族》/ フュザン・紙 / 33.0×25.0cm

参考出品：リトグラフ2点　パレット1点
＊出品作品はすべて東京，谷本浤朗氏所蔵

《土曜講座》

通算回数	月日	講座題目	講師
		《地中海学会春期連続講演会 －憧れのギリシア・ローマ文化》	
1718	1995年 4月 8日	アレクサンドロス大王とヘレニズム美術	長田年弘氏
1719	4月15日	ペルガモンの大祭壇	中山典夫氏
1720	4月22日	ポンペイ・グラフィティ	本村凌二氏
1721	5月13日	エトルリアとオリエント	シュテファン・シュタイングレーバー氏（通訳付）
1722	5月20日	ピラネージと古代建築	桐敷真次郎氏
1723	5月27日	アテナイのヘファイストス神殿	福部信敏氏
		《ジャポネズリー研究学会連続講演会 －西と東，出会いの記録》	
1724	6月 3日	日本とフランス－マネ，ゴッホ，ロダンのまなざし	小林利延氏
1725	6月10日	日本とイギリス－ホイスラーの場合	中山　功氏
1726	6月17日	「前衛」の交流－東京とベルリン	水沢　勉氏
1727	6月24日	異郷アメリカ－知られざる戦前期日系人画家たち	岡部昌幸氏
		《近代絵画史のなかにみる青木繁》	
1728	7月 1日	青木繁への道	橋富博喜
1729	7月 8日	描かれた「海の幸」「山の幸」－その主題の変遷	山梨絵美子氏
1730	7月15日	青木繁と西洋絵画	隠岐由紀子氏
1731	7月22日	写実の不安な半身－青木繁の闇	北澤憲昭氏
		《19世紀フランス美術とモンティセリ》	
1732	9月16日	ロココから19世紀絵画へ	大野芳材氏
1733	9月23日	ロマン主義と色彩－ドラクロワをめぐって	阿部良雄氏
1734	9月30日	印象派の光	島田紀夫氏
1735	10月 7日	モンティセリ，ディアズ，バルビゾン派	馬渕明子氏
1736	10月14日	セザンヌ，ゴッホ，モンティセリ	宮崎克己
1737	10月21日	モンティセリ芸術の魅力	隠岐由紀子氏
		《地中海学会秋期連続講演会－地中海の美と食》	
1738	11月 4日	北アフリカ料理の原点－クスクスとハッカ茶	宮治美江子氏
1739	11月11日	カルメンの食卓	荻内勝之氏
1740	11月18日	ローマ皇帝たちの食卓	塚田孝雄氏
1741	11月25日	クレオパトラの美と食	吉村作治氏
1742	12月 2日	イスタンブルの食の世界	鈴木　董氏
1743	12月 9日	プロヴァンスの山と海	樺山紘一氏
		《美術展回顧》	
1744	1996年 1月27日	戦後最初の西洋美術名作展	嘉門安雄氏
1745	2月 3日	《ミロのヴィーナス》特別公開	中山公男氏
1746	2月10日	万国博美術館－1970年，大阪	森田恒之氏
1747	2月17日	正倉院展の50年	木村法光氏
1748	2月24日	高橋由一展と明治初期洋画研究	陰里鐵郎氏
1749	3月 9日	洛中洛外図の世界	狩野博幸氏
1750	3月16日	最後（？）のゴッホ展，1985年	有川治男氏
1751	3月30日	“東京ビエンナーレ，1970”を振り返る	峯村敏明氏
1752	4月 6日	ヴェネチア・ビエンナーレの日本館	矢口國夫氏
1753	4月13日	“1920年代・日本”展をめぐって	萬木康博氏

《博物館実習生の受入れ》

学芸員資格取得のための博物館実習生を次のように受入れた。
期間：1995年7月25日－30日，8月1日－6日
人数：11校　30名

実習内容：

	10:30－12:30	13:30－15:00	15:30－17:00
第1日 (火)	館長挨拶 美術館の組織と運営	美術館内見学	レジストレーションⅠ
第2日 (水)	調査・研究Ⅰ	調査・研究Ⅱ	レジストレーションⅡ
第3日 (木)	調査・研究Ⅲ	企画展Ⅰ	企画展Ⅱ
第4日 (金)	保存・修復Ⅰ	保存・修復Ⅱ	実習ノート整理
第5日 (土)	調査・研究Ⅳ	図書資料の整理Ⅰ	図書資料の整理Ⅱ
第6日 (日)		展示デザイン	まとめ～美術館の将来

《1995年度新収図書》

	購入	寄贈	計
和書	172冊＊	83冊	255冊
洋書	126冊	61冊	187冊
計	298冊	144冊	442冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)
＊複製版『明星』全100冊を含む

主な記録　石橋美術館

《特集展示》

ザオ・ウーキー
1995年6月27日(火)－8月31日(木)
出品内容：油彩8点　水彩・墨11点　版画3点　計22点

1.《21・Sep・50》/ 1950年 / 油彩・カンヴァスボード / 37.8×46.0cm
2.《15・1・61》/ 1961年 / 油彩・カンヴァス / 54.1×73.4cm / ブリヂストン美術館
3.《24・2・70》/ 1970年 / 油彩・カンヴァス / 130.0×162.4cm / ブリヂストン美術館
4.《10・6・75》/ 1975年 / 油彩・カンヴァス / 65.0×81.0cm / ブリヂストン美術館
5.《10・3・76》/ 1976年 / 油彩・カンヴァス / 195.0×97.0cm
6.《27・12・76》/ 1976年 / 油彩・カンヴァス / 54.0×81.0cm
7.《7・6・85》/ 1985年 / 油彩・カンヴァス / 114.0×195.0cm
8.《5・11・90》/ 1990年 / 油彩・カンヴァス / 72.7×90.9cm
9.《サバンナ(草原)》/ 1952年 / 水彩・紙 / 33.0×37.0cm
10.《鳥の飛翔》/ 1954年 / 版画 / 58.0×44.5cm
11.《作品 A》/ 1961年 / 版画 / 32.0×62.5cm
12.《作品 B》/ 1962年 / 版画 / 57.0×43.5cm
13.《78-17》/ 1978年 / 墨・紙 / 96.2×61.0cm
14.《80-55》/ 1980年 / 墨・紙 / 100.0×106.0cm
15.《80-56》/ 1980年 / 墨・紙 / 94.5×97.0cm
16.《80-60》/ 1980年 / 墨・紙 / 104.0×107.0cm
17.《80-61》/ 1980年 / 墨・紙 / 105.0×107.0cm
18.《80-66》/ 1980年 / 墨・紙 / 107.0×105.0cm
19.《無題 No.4》/ 1981年 / 墨・紙 / 105.0×106.5cm
20.《無題 No.5》/ 1981年 / 墨・紙 / 104.0×104.0cm
21.《無題 No.6》/ 1981年 / 墨・紙 / 104.0×104.0cm
22.《無題 No.7》/ 1981年 / 墨・紙 / 104.0×104.0cm

＊所蔵の記載のないものは，すべて個人蔵

《美術講座》

	月日	講座題目	講師
		《特集展示「ザオ・ウーキー」開催記念美術講座》	
1995年	7月30日	ザオ・ウーキー　その人と芸術	村田慶之輔氏
		《美術館を訪ねてII》	
	7月15日	日本のバルビゾン－山梨県立美術館でミレーに会う	立入正之氏
	7月22日	サントリー美術館の生活の美	榊原　悟氏
	7月29日	王朝の雅－徳川美術館と源氏物語絵巻	四辻秀紀氏
	8月 5日	明治洋画の先覚者・久米桂一郎と久米美術館	伊藤史湖氏
		《石橋美術館学芸員による講座》	
	10月 7日	モナ・リザと現代美術	田内正宏
	10月14日	大正から昭和へ	杉本秀子
	10月21日	岡田三郎助の裸婦像	橋富博喜
	10月28日	明治の美術－画塾から美術団体へ	植野健造
	11月 4日	Introduction－別館開館の前に	平間理香

《1995年度新収図書》

	購入	寄贈	計
和書	1139冊	81冊	1220冊
洋書	9冊	0冊	9冊
漢書	3冊	0冊	3冊
計	1151冊＊	81冊	1232冊

(展覧会図録・逐次刊行物は含まない)
＊谷口先生蔵書は現在整理中のため含まない

1995年度入場者数

ブリヂストン美術館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	25	3,698	726	286	483	5,193	98	5,291	212
5	26	4,051	1,003	426	913	6,393	58	6,451	248
6	25	3,508	699	250	621	5,078	72	5,150	206
7	26	6,040	1,245	419	441	8,145	126	8,271	318
8	27	8,693	1,667	1,401	368	12,129	141	12,270	454
9	25	7,285	1,234	306	533	9,358	240	9,598	384
10	26	6,466	1,037	153	487	8,143	220	8,363	322
11	26	5,732	1,188	191	966	8,077	170	8,247	317
12	18	4,568	919	87	582	6,156	170	6,326	351
1	20	3,870	405	177	248	4,700	33	4,733	237
2	25	4,392	563	210	319	5,484	48	5,532	221
3	27	4,397	756	284	226	5,663	54	5,717	212
合計	296	62,700	11,442	4,190	6,187	84,519	1,430	85,949	290

石橋美術館

月	開館日数	有料					無料	総計	一日平均
		一般	大・高生	中・小生	団体	合計			
4	26	1,448	83	116	106	1,753	43	1,796	69
5	26	2,353	114	152	1,500	4,119	101	4,220	162
6	26	1,611	90	70	805	2,576	200	2,776	107
7	26	1,694	145	179	407	2,425	306	2,731	105
8	27	2,482	304	551	64	3,401	480	3,881	144
9	3	160	4	14	32	210	15	225	75
10	26	1,912	69	96	924	3,001	138	3,139	121
11	26	2,190	112	72	777	3,151	73	3,224	124
12	23	929	52	54	542	1,577	44	1,621	70
1	23	1,119	58	92	418	1,687	49	1,736	75
2	25	1,387	90	61	675	2,213	55	2,268	91
3	27	1,937	165	164	357	2,623	45	2,668	99
合計	284	19,222	1,286	1,621	6,607	28,736	1,549	30,285	107

新収蔵作品　New Acquisitions

ブリヂストン美術館

オリオール，ジョルジュ
AURIOL, George
1863-1938

ざわめく森
1893年の『エスタンプ・オリジナル』第2号所収
6色刷り石版画
画面サイズ：49.8×32.6cm；紙サイズ：58.5×42.6cm
版の右下にモノグラム：GA；右下の余白に鉛筆で番号と署名：No.72 George Auriol；左下の余白に空押し印（A. シャルパンティエ作）

Shivering trees (Bois frissonants)
L'Estampe originale, Album II, 1893
6 colour lithograph
Image size: 49.8×32.6cm; sheet size: 58.5×42.6cm
Monogram, lower right on stone: GA; Number and sign, lower right margin, pencil: No.72 George Auriol; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower left margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat. no. 2 (pl. 11); Armond Fields, *George Auriol*(Catalogue Raisonné by M. Leroy-Crevecœur), Utah, 1985, p.125, no.7;『版画に見るジャポニスム展』渋谷区立松濤美術館他, 1989-90年, cat.no.132; P. E. Boyer and P. D. Cate, *L'Estampe originale. Artistic printmaking in France 1893-1895*, Van Gogh Museum, Amsterdam, 1991, cat.no.2.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ジョルジュ・オリオールは1880年代に，モンマルトルのキャフェ「黒猫」及び同名の雑誌に関わり，そこで出会ったリヴィエールらより日本美術に対する関心を含めた造形的・技術的な影響を受けた。雑誌『黒猫』では編集スタッフとして，挿画のみならず，創作・批評の執筆もしている。

《ざわめく森》はオリオールが初めて制作したリトグラフである。ここで画中に書き込まれているのは，「黒猫」の常連で『薫製鰊』で有名なシャルル・クロ（1842-88）の詩。「森はざわめき／星はそらに降れる／わがいとしきひとは往けり／望み果てしわが心を持ちて去れり！／風よ，そなたの恨みがましきつぶやきをもて／やさしき夜啼鳥よ，そなたの歌をもて／かのひとにゆきて告げよ／われ息絶えむと！」　女性の優美な立ち姿やその容貌，衣装の装飾的パターン，黒い輪郭線と平坦に施された淡い色彩，掛軸の表装を模したデザイン，画面中にテキストが書き込まれていることなど，この作品にはアルセーヌ・アレクサンドルに「パリの日本人」と呼ばれたオリオールの熱心な日本美術研究が示されている（Arsène Alexandre, "George Auriol", *Art et Décoration*, janvier-juin, 1899）。

ウダール，シャルル=ルイ
HOUDARD, Charles-Louis
生没年不詳

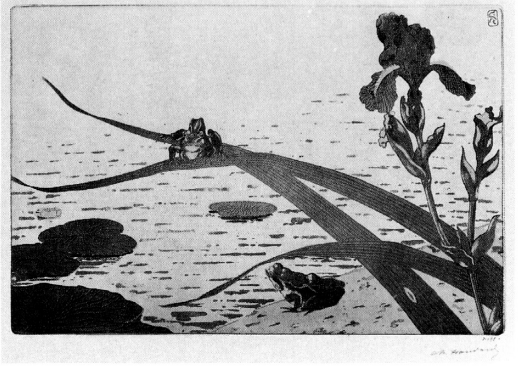
蛙
1894年の『エスタンプ・オリジナル』第8号 所収
3色刷りアクアティント
画面サイズ：40×26.1cm；紙サイズ：47.2×37.3cm
画面の右上にモノグラムの印章：CH；右下の余白に鉛筆で番号と署名：No.38/Ch. Houdard；左下の余白に空押し印（A. シャルパンティエ作）

Frogs (Grenouilles)
L'Estampe originale, Album VIII, 1894
3 color aquatint
Image size: 40×26.1cm; sheet size: 47.2×37.3cm
Monogram, right upper composition, red ink stamp: CH; Number and sign, lower right margin, pencil: No.38 / Ch. Houdard; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower left margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat.no.36 (pl.73); Cat. exp., *Japonisme. Japanese Influence on French Art 1854-1910*, The Cleveland Museum of Art, 1975, p.98, no.135（『ジャポニスム　1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』大庭節郎訳 国際墨技専門学校出版部 1982 p.104, no.135); P.E. Boyer and P.D. Cate, *L'Estampe originale. Artistic print-making in France 1893-1895*, Van Gogh Museum, Amsterdam, 1991, cat.36.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

蛙



ウダールは世紀転換期に活躍した画家・版画家。この作品によく似た，やはり《蛙》と題される多色刷りアクアティントがある（『版画に見るジャポニスム展』渋谷区立松濤美術館他，1989-90年，cat.no.5. p.29.このカタログでは『エスタンプ・オリジナル』の作品と混同されている）。《蛙》はモティーフ・構図・色彩のどれをとっても西洋人による花鳥画といった風情の作品である。

装飾パネル

使い走りの娘たち

ラシュー，アンリ
RACHOU, Henri
1856-1944

装飾パネル
1893年の『エスタンプ・オリジナル』第2号 所収
8色刷り石版画
画面サイズ：48.5×29.8cm；紙サイズ：58.6×41.6cm
版の右上に署名：RACHOU HENRI；左下の余白に鉛筆で署名と番号：Henri Rachou 38；右下の余白に空押し印（A. シャルパンティエ作）

Decorative Panel (Panneau décoratif)
L'Estampe originale, Album II, 1893
8 color lithograph
Image size: 48.5×29.8cm; sheet size: 58.6×41.6cm
Sign, upper right on stone: RACHOU HENRI; Sign and number, lower left margin, pencil: Henri Rachou 38; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower right margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat. no.59 (pl.16); Cat. exp., *Japonisme. Japanese Influence on French Art 1854-1910*, The Cleveland Museum of Art, 1975, p.106, no.141（『ジャポニスム 1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』大庭節郎訳 国際墨技専門学校出版部 1982 p.100, no.141）; P. E. Boyer and P. D. Cate, *L'Estampe originale. Artistic print-making in France 1893-1895*, Van Gogh Museum, Amsterdam, 1991, cat.59.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

無地の空間に配された桶や鉢，植物，小動物のモティーフ，抑えた渋い色彩，そしてなによりこの自然と人間の暮らしに対する繊細な感受性は，ロートレックと共に浮世絵を蒐集していた（*Japonisme*, Cleveland, p.106）というラシューの日本美術研究が本質をつかんでいたことを示している。

ランフト，リシャール
RANFT, Richard
1862-1931

使い走りの娘たち
1894年の『エスタンプ・オリジナル』第8号 所収
エッチングとアクアティント
画面サイズ：40×25.9cm；紙サイズ：59.7×42.7cm
版の左下に署名：RICHARD RANFT；右下の余白に鉛筆で番号と署名：No 65/Richard Ranft；左下の余白に空押し印（A. シャルパンティエ作）

Trottins
L'Estampe originale, Album VIII, 1894
Etching, aquatint
Image size: 40×25.9cm; sheet size: 59.7×42.7cm
Sign, lower left plate: RICHARD RANFT; Number and sign, lower right margin: No 65/ Richard Ranft; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower left margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat. no.61 (pl.78);『版画に見るジャポニスム展』渋谷区立松濤美術館他, 1989-90年, cat. no.118; P. E. Boyer and P. D. Cate, *L'Estampe originale. Artistic print-making in France 1893-1895*, Van Gogh Museum, Amsterdam, 1991, cat.61.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ランフトはスイス人で，ヴヴェイ近郊に亡命していたクールベに師事。後にはパリで多色刷り石版画の技法を学び，サーカスや都市生活に取材した版画やポスターを制作した。《使い走りの娘たち》は，身体の一部を切り取る構図，視点，女性たちの細長い肢体，そして縁飾りのモチーフなどに日本美術の影響が見られる。

ランソン，ポール＝エリー
RANSON, Paul-Elie
1861-1909

密林の虎
1893年の『エスタンプ・オリジナル』第1号所収
3色刷り石版画
画面サイズ：36.7×28.5cm；紙サイズ：59×41.7cm
版の右下に署名：P Ranson；右下の余白に鉛筆で番号：no 7；左下の余白に鉛筆で署名: P.Ranson；右下の余白に空押し印(A. シャルパンティエ作)

Tiger in the Jungle (Tigre dans les jungles)

L'Estampe originale, Album I, 1893
3 color lithograph
Image size: 36.7×28.5cm; sheet size: 59×41.7cm
Sign, lower right on stone: P Ranson; Number, lower right margin: no 7; Sign, lower left margin, pencil: P.Ranson; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower right margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat. no.62(pl.6); Cat. exp., *Japonisme. Japanese Influence on French Art 1854-1910*, The Cleveland Museum of Art, 1975, pp.98-99, no.137(『ジャポニスム 1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』大庭節郎訳 国際墨技専門学校出版部 1982 pp.104-105 no.135); P. E. Boyer and E. Prelinger, *The Nabis and the Parisian Avant-Garde*, New Brunswick, 1988, cat.no.88 (fig.137);『ジャポニスム展』国立西洋美術館 1988年 cat. no. 312; Cat. exp., *Nabis 1888-1900*, Grand Palais, Paris, 1993-94, p.453, cat. no.266; François Fossier, *La nébuleuse nabie. Les Nabis et l'art graphique*, Bibliothèque nationale, Paris ,1993, pp.247, 249; Brigitte Ranson Bitker, "Paul-Elie Ranson (1861-1909).《Le Nabi le plus japonard que le japonard》" (avec un "Essai de catalogue raisonné des lithographies et de l'œuvre gravé"), *Nouvelles de l'estampe*, no. 129, août 1993, pp.18-19, cat.no.8.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

ランソンの版画は制作年代が1892年から1903年までに限られており，その数はわずか20点ほどである(cf., Ranson Bitker, "Essai de catalogue raisonné des lithographies et de l'œuvre gravé")。《密林の虎》はそのうちでも最良のものだろう。装飾的でありながらダイナミックなこのリトグラフは，主題と造形の双方において日本美術の影響を顕著に示し，「"日本的ナビ〔ボナールのこと〕より日本的なナビ」と呼ばれたランソンの面目躍如たる作品である。他のナビ派のメンバーと同じく装飾芸術に強い関心を抱いていたランソンは，1890年代にタピスリーの下絵を数点制作しており，《密林の虎》も1898年に下絵として描き直されている(実際にタピスリーに織られたのは1910年。*Ibid.*, p.19)。発想源として1893年の『メルキュール・ド・フランス』誌に掲載された小話「虎の嫉妬」が指摘されている(*Ibid.*, p.12)。またイメージ・ソースとしては歌麿の名が挙げられているが(cat. exp., *Japonisme*, Cleveland, p.99, Fig.29)，むしろ画面一杯に駆ける虎を描いた『北斎漫画』13編中の《奔虎》の方が背景の処理やその躍動感において近い。

ルーセル，ケル＝グザヴィエ
ROUSSEL, Ker-Xavier
1867-1944

犬の教育　あるいは　雪の中で
1893年の『エスタンプ・オリジナル』第1号所収
4色刷り石版画
画面サイズ：33×19.3cm；紙サイズ：58.9×41.9cm
版の右下に署名：KX Roussel；左下の余白に鉛筆で署名と番号：KX Roussel/ No 24；右下の余白に空押し印（A. シャルパンティエ作）

The Education of the Dog *or* In the Snow
(L'Education du chien *ou* Dans la neige)
L'Estampe originale, Album I, 1893
4 color lithograph
Image size: 33×19.3cm; sheet size: 58.9×41.9cm
Sign, lower right on stone: KX Roussel; Sign and number, lower left margin, pencil: KX Roussel/ No 24; Blind stamp (by Alexandre Charpentier), lower right margin

来歴　Prov.: Christopher Drake, London; Arcadia, Tokyo
文献　Bibl.: D. M. Stein and D. H. Karshan, *L'Estampe originale: A Catalogue Raisonné*, The Museum of Graphic Art, New York, 1970, cat.no.76 (pl.7); Cat. exp., *Japonisme. Japanese Influence on French Art 1854-1910*, The Cleveland Museum of Art, 1975, p.99, no.138（『ジャポニスム　1854年から1910年にかけてのフランス美術に対する日本の影響』大庭節郎訳 国際墨技専門学校出版部 1982 p.104, no.105）; P. E. Boyer and E. Prelinger, *The Nabis and the Parisian Avant-Garde*, New Brunswick, 1988, cat. no.106 (fig.40); *Nabis 1888-1900*, Grand Palais, Paris, 1993-94, cat. no.275, p.459; François Fossier, *La nébuleuse nabie. Les Nabis et l'art graphique*, Bibliothèque nationale, Paris, 1993, pp.148-150.

保管：ブリヂストン美術館
Managed by Bridgestone Museum of Art (Tokyo)

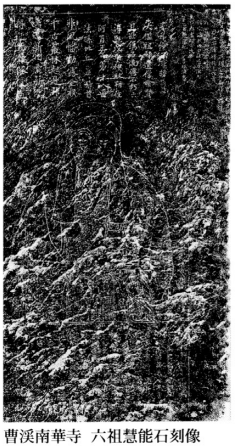
ナビ派の画家ルーセルは1893年に初めて版画（すべてリトグラフ）をてがけた。《犬の教育》はこの年に制作された5点のうちもっともよく知られたもので，ランソンの《密林の虎》と同じく『エスタンプ・オリジナル』の第1号に収められた。『エスタンプ・オリジナル』とはアンドレ・マルティが発行した季刊のオリジナル版画集。1893年3月から1895年初めまで，年4回，10点（最終号は14点）の版画が収められ，100部ずつ刷られた。関わった画家の数は74人，制作された版画は95点に及ぶ。《犬の教育》は，ここに収められた版画の多数がそうであったように，平坦な色面から成るプランが上へと重なる構成，人物の細長いシルエット，色彩などに日本美術の影響が示されている。（以上6点，福満葉子）

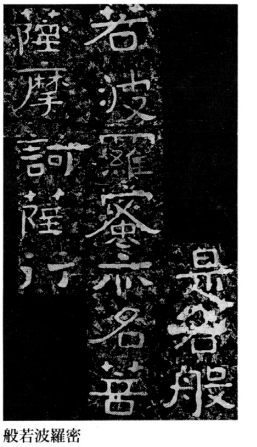
新収蔵作品　New Acquisitions

石橋美術館

曹渓南華寺　六祖慧能石刻像
紙本墨拓，掛幅装，129.3×71.5cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－29）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)


曹渓南華寺　六祖慧能石刻像

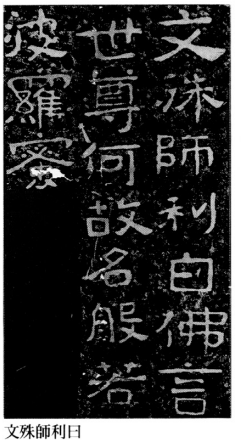

般若波羅密

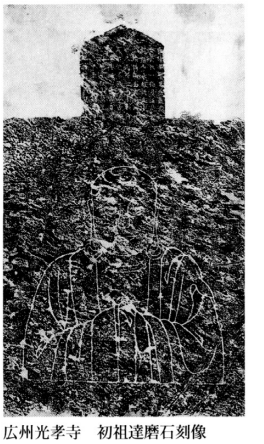
般若波羅密
紙本墨拓，掛幅装，133.0×69.9cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－30）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

文殊師利曰
紙本墨拓，掛幅装，137.6×74.8cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－31）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)


文殊師利曰


広州光孝寺　初祖達磨石刻像

広州光孝寺　初祖達磨石刻像
紙本墨拓，掛幅装，115.9×71.7cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－32）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

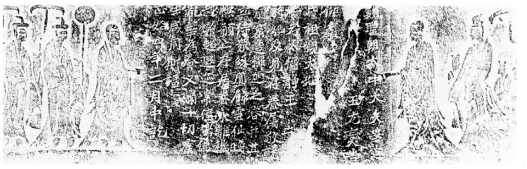
広州光孝寺　六祖慧能像
紙本墨拓，掛幅装，141.6×87.4cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－33）
Managed by shibashi Museum of Art (Kurume)

広州光孝寺　六祖慧能像

魏聖朝太中大夫
紙本墨拓，掛幅装，24.7×71.8cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－34）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)


魏聖朝太中大夫

広州王祖母太妃侯
紙本墨拓，掛幅装，26.6×79.7cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－35）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

広州王祖母太妃侯

石曼卿
紙本墨拓，掛幅装，80.3×174.0cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－36）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

石曼卿

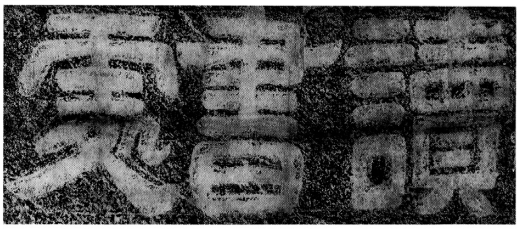
翠壁
紙本墨拓，額装，137.8×222.7cm

来歴：谷口家；1995年12月9日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－37）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

翠壁

読書処
紙本墨拓，額装，80.3×183.0cm

来歴：谷口家；1996年1月5日，石橋財団へ寄贈
保管：石橋美術館（雑－38）
Managed by Ishibashi Museum of Art (Kurume)

読書処


修復記録

長谷川路可《オスチア》 1955-56年
フレスコ(画布に移し換えられている) 70.1×43.0cm
ブリヂストン美術館

長谷川路可《カナチエ》 1955-56年
フレスコ(画布に移し換えられている) 83.0×42.0cm
ブリヂストン美術館

[はじめに]

作品は漆喰地にフレスコ技法で描かれた後，作者自身の手で彩色層が壁から剥がされ，漆喰壁が画布に移し換えられて制作が完了し，現在に至ったものである。この作品の修復処置にあたっては，構造としてのオリジナリティー保存の問題を強く意識したものとなった。

フレスコ技法で描かれた後ストラッポされた本作品は，言うまでもなく絵画表現としての彩色層だけでなく漆喰という素材が物質感として作品の表現を支えている。特に今回の作品はローマ時代の壁画の模写であり，作者は模写を単なる図像として行ったのではなく，その技法・材料の面からアプローチした。このことはブリヂストン美術館の資料からも，作者がフレスコ技法及びストラッポ技法の修得のためにヴァチカンに赴いたことが確認されている。作品の制作にあたり，作者がこのように技法と材料に関心を示していた以上，修復処置にあたっては作品の構造的なオリジナリティーの保存が非常に重要なこととなる。

前回の修復処置報告(館報43号)において我々は「修復処置の目的は，損傷を受けた作品を極く自然で穏やかに経年劣化した状態に近づけること」と考えられるとして，黒田清輝作品《杣》の修復報告を行った。処置の結果，過剰な処置介入をせずに劣化・損傷部分を補強し，作品の微妙なバランスを維持し，穏やかに経年劣化した状態に近づける

ことができたと考えている。

「修復の原則は，原画を損なわず，作品をできる限り元の状態に戻す。再修復に備えて除去の容易な材料を使用する」といった考えはほとんどの修復家の念頭にあることと思う。しかしこの原則を維持するためには“原画”とは何か，“元の状態”とはどういった状態であるのか，ということをその出発点として確認する必要がある。

我々は今回の保存修復処置にあたり，ともすれば図像の保存・修復にのみ偏りがちな処置の評価に対して，作品の物質や構造としてのオリジナリティーを保存・修復することを評価の基準とした。そのため処置にあたっては，ブリヂストン美術館保存担当学芸員の田中千秋氏と充分な検討を行った。

結果として作者の意図した作品の構造的な“原画”の保存修復ができたものと考えている。しかし，図像の保存・修復の面から見ると，鑑賞の妨げとなる部分を残した可能性があり，一般的な修復に対する期待には応えていないかも知れない。作品に対する保存修復処置を，何を持って評価するのかは，今後より広く検討されるべきものと考える。これは，我々修復処置を行った者のみで解答が出せる問題ではないからである。

［作品の状態］

《オスチア》(fig.1)

この作品はヴァチカン美術館所蔵の壁画(ローマ時代)の模写であり，当初漆喰に描かれた後剥ぎ取られ，亜麻布に移し換えられている。

壁画を本来の壁から剥し，他の支持体に移し換えるこの技法はストラッポと呼ばれ，本来は作品の移動・保存のための処置であった。しかしこの制作者は表現上の一つの技法としてストラッポ技法を使用した可能性がある。

木枠は日の字型でM20号の規格品を断ち落として使用している。断ち落とした部分の組み手は無く，45度に切られた材をそのまま接着固定している。また中桟もほぞ組は無く，釘打ちによって接合されている。木枠には若干の変形があるが，充分な強度を持っている。木枠の四隅と中桟には楔穴は無く，楔が使用された形跡は無い。

支持体の亜麻布は目の粗い薄地のもの(織り糸数　経糸19，緯糸18本／cm²)で，画布全体に油性の白色地塗り層が観察でき，既製品と思われる。

亜麻布には画面左下(画面左端から約50mm，下端から約75mm)に長辺25mm，短辺15mmのカギ裂きがあり，その損傷部表面には油絵具が塗り付けてある。同様の損傷部(径2mmの穴)が画面右下(画布右端より35mm，下端より193mm)に認められる。

画面四隅と長辺中間部分にコマによる穴が合計6カ所ある。その内5カ所は絵具層にコマの押し跡が付いている。

亜麻布の張り代部分は劣化が進行し，充分な作品の保持ができていない。また，張り代部分には上辺左方にカギ裂きがある。

絵具層は二つに分けられる。一方は画面周辺部の油彩による空色の部分である。この部分は漆喰層を画布に合成樹脂で貼り付けた後に，単一の油絵具で塗られた。この絵具層には額の刃先で隠された部分に黄変が見られる。もう一方は漆喰に描かれ，ストラッポされた模写の部分である。漆喰層の部分はストラッポと言うには若干厚く剥ぎ取られていて，一部スタッコ(漆喰に描かれた作品を漆喰層ごと剥ぎ取る技法。これに対してストラッポは主に彩色層を剥ぎ取ることを目的としている)とも考えられる。このように剥ぎ取られたものは漆喰層が厚いため柔軟性がなく，支持体としての画布に貼り付けるには適していない。特に本作品では画布が薄く，漆喰層を保持するには不充分である。現状においては漆喰層に層間剥離が起き，早急に作品の支持方法を改良する必要がある。

fig.1　長谷川路可《オスチア》修復後全図

《カナチエ》(fig.2)

この作品はオスチアと同様に，ヴァチカン美術館所蔵の壁画(ローマ時代)の模写であり，当初漆喰に描かれた後剥ぎ取られ，亜麻布に移し換えられている。

ここでも作者はストラッポ技法を一つの表現上の技法として使用した可能性がある。

木枠は目の字型でF40号の規格品を断ち落として使用している。断ち落とした部分の組み手は無く，45度に切られた材をそのまま接着固定している。また中桟もほぞ組は無く，釘打ちによって接合されている。木枠には若干の変形があるが，充分な強度を持っている。木枠の四隅と中桟には楔穴は無く，楔が使用された形跡は無い。

支持体の亜麻布は目の粗い薄地のもの(織り糸数　経糸18，緯糸18本／cm^2)で，亜麻布全体に油性の白色地塗り層が観察でき，既製品と思われる。この画布はオスチアと同じものと考えられる。

亜麻布には画面上部(画面上端から約65mm，右端から約182mm付近)に長さ23mmの鋭利な裂け傷があり，裏面に麻布片(約45mm×25mm)を貼り付けることで繕ってある(fig.3)。この処置部には変形は見られず，この部分裏打ちを現状において除去する必要はない。

絵具層は二つに分けられる。一つは漆喰に描かれ，ストラッポされた模写の部分である。もう一方は青みを帯びたグレーの油彩の部分で，漆喰層を画布に合成樹脂で貼り付けた後に単一の色で塗られている。この油彩は模写の図像中にもストラッポ時に受けた損傷部の補筆として塗布されている。

模写の部分は極薄くストラッポされていて，オリジナルの漆喰層はほとんど残っていない。作品の絵具層は0.2－0.3mmの極薄いものであり，さらに剥ぎ取られた絵具層のほとんどは，画布に貼り付けるために用いた合成樹脂の接着剤に置き代り，図像は半ば消えかかった状態で残っている(fig.4)。

剥ぎ取られ移し換えられた表面は矩形ではない。作品画面寸法よりも大きく，枠側面に折り込まれた部分がある。剥ぎ取り層の周辺部ではめくれたり，巻き込まれたまま接着された部分もある。この部分の中には前述した油彩が塗布された部分がある(fig.5)。

本作品の画布は薄く，ストラッポ時に強く洗浄されたため，特に画布の張り代部分が劣化している。このままでは作品の保持が不充分であり，支持方法を改良する必要がある。

［処置の方針］

《オスチア》，《カナチエ》共に紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行った。結果《オスチア》には様相の異なる四種類の“損傷”(見かけ上の破綻を含む)が認められた(fig.6)。

1. 模写対象作品の現状として模写された“損傷”
2. 移し換え時に損なわれ，作者が放置した“損傷”
3. 作者が漆喰の盛り上げと彩色によって補った，周囲と違

fig.2　長谷川路可《カナチエ》修復後全図

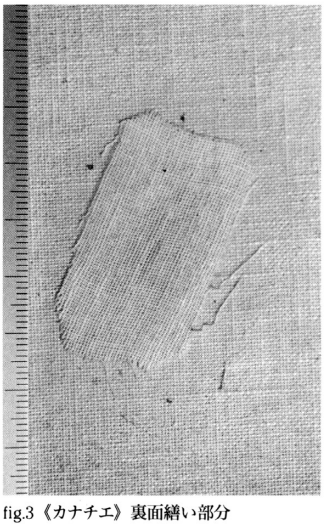


fig.3《カナチエ》裏面繕い部分

fig.4《カナチエ》画面部分

和感のある加筆(“損傷”)

4. 制作終了後に受けた“損傷”

これらの“損傷”が見られることから，修復処置について保存担当学芸員田中氏と充分な検討を行った。

また《カナチエ》では，前述したように模写の部分は極く薄くストラッポされ，オリジナルの漆喰層はほとんど残っておらず，剥ぎ取られた絵具層が，画布に貼り付けるために用いた合成樹脂の接着剤に置き代り，図像は半ば消えかかった状態で残っていることに加え，彩色層のほとんどは剥ぎ取り時に失われていることが観察できた。透過光の観察でも画面にはほとんど漆喰層が無いことが確認された。

これら作品の修復にあたり第一に考慮しなければならないことは，作品のオリジナリティーの保存にある。前述したように作品はストラッポ(一部スタッコ)という通常は保存・修復のための技法を，その制作手法の一部とした可能性がある。通常の修復処置では，原作の質感と違和感を持った旧修復は除去し再修復を行う。しかし本作品においては，この違和感を持った部分が修復処置ではなく，作者の意図する表現であった可能性も否定できない。さらに，作品は壁画の現状模写であり，模写された原画のオリジナリティーと，模写を行った作者の作品としてのオリジナリティーとの問題も内在する。

我々は修復処置の方針を，原作の質感と違和感のないように，出来る限り現状を維持保存すること，異物の除去やそれに伴う補彩は極く最低限に留め，この修復に関わっている全員の賛同が得られる部分にのみ行うこととした。明らかに制作後に受けた損傷部であっても，現時点においては充填や補彩は行わず，今後の課題として広く関係者の意見を聞くこととした。

[処置の概要]

《オスチア》

・状態調査及び記録
・損傷部周辺の接着強化
・漆喰層中の剥離，画布と漆喰層の剥離部の接着強化と変形修正
・漆喰層全体の強化
・移し換え時の養生に用いられた麻布の残滓の除去と補彩
・木枠の解体・再接着による調整と支持のための樹脂板の付加
・緩衝材として樹脂板表面にフェルトを貼付
・画布張り代部分の補強
・画布の損傷部(カギ裂き・穴)の補強
・調整した木枠への張り込み
・修復後写真撮影及び報告書の作成

損傷部周辺の漆喰が脆くなり剥落の恐れのある部分に，D-8(エチレン化酢酸ビニル樹脂)5%水溶液を含浸させ漆喰層の接着を強化した(fig.7)。

漆喰層の層間剥離部や，支持体との浮き上がり部にD-8

fig.6《オスチア》各種“損傷”

fig.5《カナチエ》張り代部分

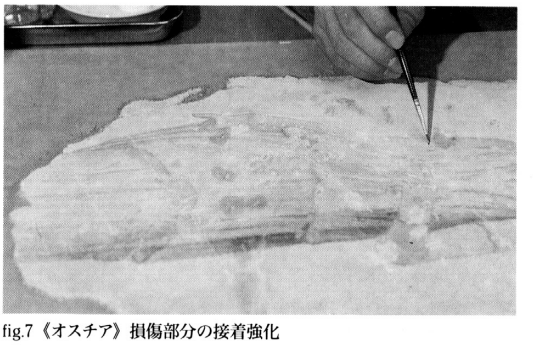


fig.7《オスチア》損傷部分の接着強化

を含浸させ，シリコンコートされたフィルム越しに加温加圧し漆喰層の変形を修正した(fig.8)。

再度，漆喰層の強化をはかり，合成樹脂(BEVA371)5%トルエン溶液を漆喰層に含浸させた。

大きく鑑賞の妨げとなっている麻布の残滓(移し換え時の養生に用いた)を物理的に除去した(fig.9)。

麻布の残滓除去後の白く見える漆喰地に水彩絵具で補彩を行った(fig.10)。

断ち落とされ，接着固定された木枠を解体し，接着面を削り接合角を修整した後，再接着することで木枠の調整を行った。

画布の支持を補助するため，アルミでコートされた樹脂板を木枠表面にステンレス製ビスで固定した(fig.11)。この樹脂板の裏面には，原作の質感を保持するため薄い亜麻布を貼り付けた。樹脂板の表面には画布の緩衝材としてフェルトを貼り付けた。

画布張り代部分に薄手の亜麻布をBEVA371で裏打ちし，画布張り込みの補強をした(fig.12)。

画布の損傷部(カギ裂き・穴)の裏面に，亜麻糸を損傷部を跨ぐようにBEVA371で接着し，画布を補強した(fig.13,14)。

調整した木枠へ補強した画布を，ステンレス製のステープルを使用して張り込んだ。

修復後の状態を撮影記録した。

《カナチエ》

・状態調査及び記録
・損傷部分の接着強化
・漆喰層中の剥離，画布と漆喰層の剥離部の接着強化と変形修正
・漆喰層全体の強化
・木枠の解体・再接着による調整と支持のための樹脂板の付加
・緩衝材として樹脂板表面にフェルトを貼付
・画布張り代部分の補強
・画布破れ部分の旧修復を改善
・調整した木枠への張り込み
・修復後写真撮影及び報告書の作成

移し換え，貼り付けられた絵具層の浮き上がり部に，D-8

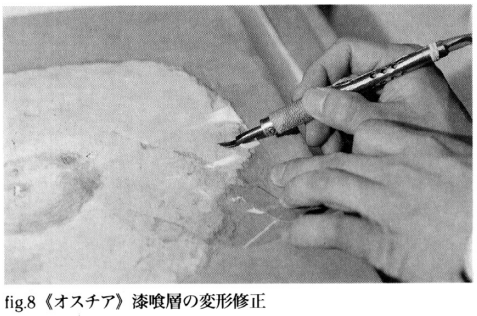


fig.8《オスチア》漆喰層の変形修正

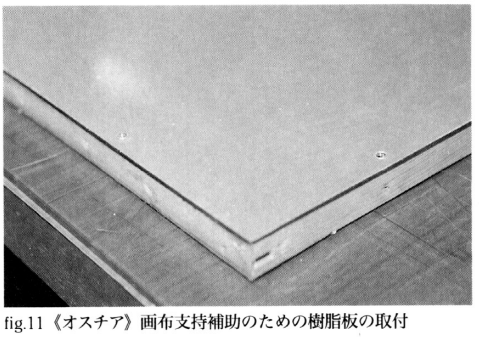


fig.11《オスチア》画布支持補助のための樹脂板の取付

fig.9《オスチア》麻布残滓

fig.10《オスチア》麻布残滓除去後

5%水溶液を含浸させ，接着を強化した(fig.15)。

断ち落とされ，接着固定された木枠を解体し，接着面を削り接合角を修整した後，再接着することで木枠の調整を行った。

画布の支持を補助するため，アルミでコートされた樹脂板を木枠表面にステンレス製ビスで固定した。この樹脂板の裏面には，原作の質感を保持するため薄い亜麻布を貼り付けた。樹脂板の表面には画布の緩衝材としてフェルトを貼り付けた。

画布張り代部分に薄手の亜麻布をBEVA371で裏打ちし，画布張り込みの補強をした。

画面上部の旧修復処置を改善した。この旧処置は，裂け傷を繕うために裏面から亜麻布片を部分的に裏打ちしたもので，処置部には変形は見られない。この部分裏打ちの亜麻布片は除去せずに，今後経年によって起こる可能性のある画布の変形を抑える目的で，裏打ち布の周辺部を削り薄くした。

調整した木枠へ補強した画布を，ステンレス製のタックスを使用して張り込んだ。この際出来る限り補強した画布の元の釘穴へタックスを打った。

修復後の状態を撮影記録した。

［おわりに］

我々は今回の処置によって，作者が意図した作品の構造的な“原画”の保存修復ができたものと考えている。ここで言う“原画”とは作者が制作した“模写”としての原画であり，模写の対象となった作品の“原画”ではない。よって，図像の保存・修復の面から見ると，鑑賞の妨げとなる部分を残した可能性があり，一般的な修復に対する期待には応えていないかも知れない。作品に対する保存修復処置を何を持って評価するのかは，今後より広く検討されるべきものと考える。今回の処置に際して我々は保存担当学芸員田中氏と充分な検討を行った。しかし，上述した問題は我々修復処置を行った者のみで解答が出せたとは思えない。

本修復については第18回文化財保存修復学会講演会大会において「長谷川路可作品(フレスコ模写)修復報告」(講演番号25)として1996年6月2日口頭発表を行った。

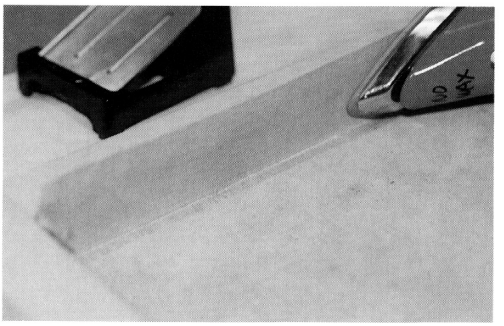


fig.12《オスチア》画布張り代部分の補強

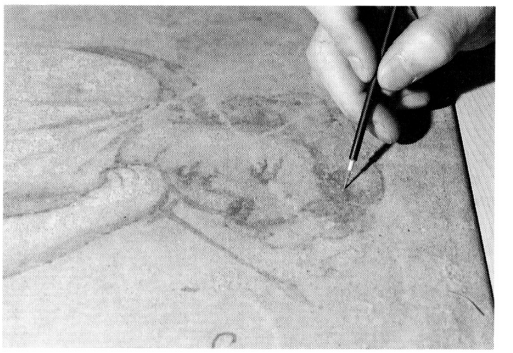


fig.15《カナチエ》損傷部分の接着強化

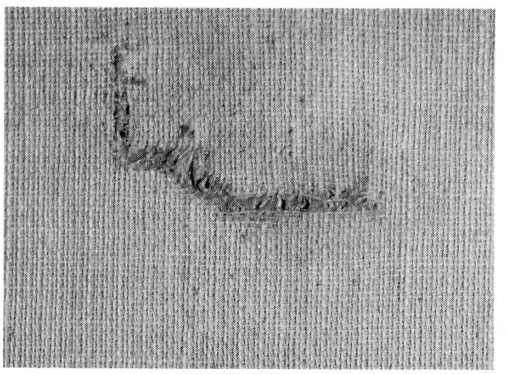


fig.13《オスチア》裏面画布損傷部分

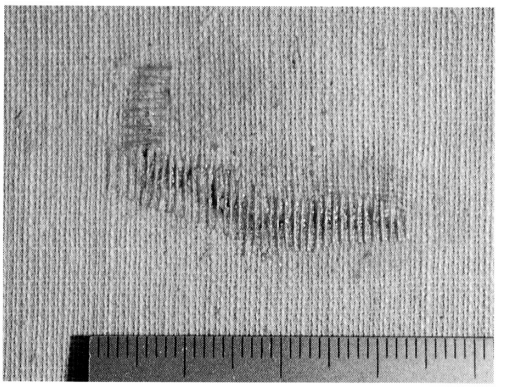


fig.14《オスチア》裏面画布損傷部分の繕い

カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》
C.1845年
油彩・麻布　44.4×63.8cm
ブリヂストン美術館

[はじめに]

保存・修復処置にあたっては作品の構造的なオリジナリティーの保存が非常に重要なこととなる。また修復の原則は，原画を損なわず，作品をできる限り元の状態に戻すこととも言われている。

さらに作品の保存という問題を考えると，直接的な修復処置のみではなく，作品の取り扱いや保存環境の整備などが必要とされる。額の表面にアクリル板を入れたり，額の裏面をベニヤ板等のボードで保護するなど，保存環境を整えて作品に衝撃を与えないことが重要である。作品が美術館などの安定した環境で保存される場合，整えられた保存環境によって作品への修復処置介入はさらに軽減することができよう。

我々は今回保存修復処置にあたり，作品の物質や構造としてのオリジナリティーを保存・修復することを評価の基準とした。そのため処置にあたっては，保存担当学芸員の田中氏と充分な検討を行った。結果この修復においては，作品のオリジナリティー保存の問題を過去の修復による変更部分（過去の修復・補彩・ワニスの黄化など）もふまえて処置方針を決定した。修復処置は最小限のものとし，表現された内容を含む作者の作画意図を歪めることのないように注意した。

[作品の状態]

この作品は亜麻布に，油彩で描かれている(fig.16)。木枠は田の字型で充分な強度を持っている。木枠の四隅と中桟には楔穴が12カ所あり，それぞれに楔が打たれている。支持体の亜麻布も画面全体に裏打ちが施され，作品の構造上は充分な強度を保っている。この裏打ちはフランス式と思われる水溶性糊によるものである。裏打ちによる修復の際に紙テープで縁貼りされている。またその際，画面洗浄と，絵具層の欠損部へ充填・補彩が行われたと思われる。

地塗り層は白色で，支持体との固着は良好である。

絵具層は伝統的な油彩画技法で制作され，明部には絵具が厚く塗られている。画面ほぼ全面には経年変化による亀裂が見られるが，旧修復時に接着固定がなされ安定した状態にある。絵具層の凸部には極く細かい剥落があるが，鑑賞の妨げとはなっていない。補彩部が変色している部分も若干はあるものの，これも鑑賞の妨げになっているとは思えない。

作品には保護ワニスが塗布されているが，黄変による変色は鑑賞の妨げとはなっていない。

主な損傷は画面左上角部分の絵具層の欠損である。カギ型の欠損部の一部は地塗り層にまで及んでいる。この部分は原画ではなく後補の可能性もある。

額にはドロアシが無く，作品の収まりが悪いので早急に額装を改善する必要がある。

[処置の方針]

紫外線蛍光写真撮影・実体顕微鏡写真撮影を伴う作品の調査を行った。調査の結果，過去の修復部が鑑賞の妨

fig.16　カミーユ・コロー《オンフルールのトゥータン農場》修復後全図

fig.17《オンフルールのトゥータン農場》絵具層欠損部分の充填

げになっているとは思えないこと，過去の修復処置以前の“元の状態”が確認できないこと，作品が物理的に安定した状態にあることが確認された。

よって今回の保存修復処置は，主な損傷である絵具層の欠損部を中心とし，オリジナリティーの保存に留意した。また保存環境を整えて作品に衝撃を与えないために，額装の改善を行うこととした。

［処置の概要］
・状態調査及び記録
・損傷部周囲の接着強化
・絵具層の欠損部分の充填・整形，補彩
・額の改善
・修復後写真撮影及び報告書の作成

紫外線蛍光写真撮影によって，作品には数多くの補彩部があることが確認された。しかし，当初考えた画面左上角の損傷部が補彩であるという確証は得られなかった。

画面左上角にある損傷部周辺に耐溶剤試験を行ったところ，損傷部周辺には合成樹脂(BEVA371)含浸による接着強化処置が既に行われていることが確認された。この処置は館の作品貸し出し時の状態記録書に記述・記録されていた。保存担当学芸員の田中氏によって行われ，この処置によって更なる剥落が防止されていた。損傷が拡大しないための予防処置として充分に機能していた。なお，この接着剤は応急処置の原則通りに，作品に損傷を与えることなく，単純な溶剤で簡単に除去することが出来た。損傷部周囲の接着強化のため，BEVA371を再度含浸させた。

絵具層の欠損部分に塑型剤(胡粉と魚膠)を細筆を使用して充填し，周辺部のマチエールに合わせ整形した(fig.17)。原画の亀裂が，絵具層の欠損部に掛かった所は，保存担当学芸員田中氏の指導で，整形せずに補彩時に描くこととした。

塑型剤の上部にのみ水彩絵具による補彩を行った(fig.18)。

周辺部のワニスを再溶解して，補彩部の艶を合わせた。

額にチーク材のドロアシを付け，作品の裏面に取り付けられていた裏板をドロアシに付けられるように額装を改善した。裏板はシナベニヤ4mm厚のものに，ウレタン樹脂塗装したものを使用した(fig.19)。

［おわりに］

過去に修復処置が施された作品の保存修復処置は“原画”とは何か，“元の状態”とはどういった状態であるのか，ということをその出発点として確認する必要がある。我々はこの問題について保存担当学芸員田中氏とも検討を行ったが，明確なる解答は出せなかった。結果的に現状を保存することで，解答を先送りにする形となった感を持つ。しかし，現時点で急いで結論を出すことよりは，今後より広く検討されるべきものと考える。充分な議論がなされ，修復処置に対するコンセンサスが得られるまで現状を保存することも修復処置の一つのあり方ではないだろうか。これは修復処置としては消極的とも捉えられるが，保存修復処置としては積極的な解答でもあろう。

（以上3点，絵画修復家　小林嘉樹，石井亨）

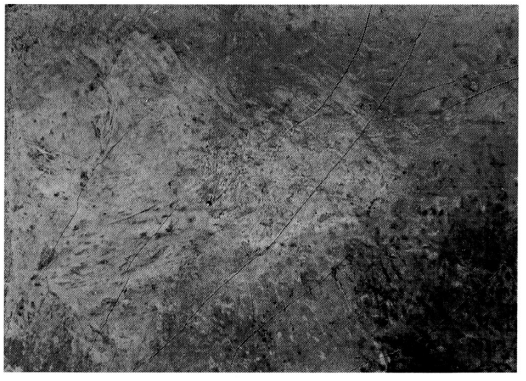


fig.18《オンフルールのトゥータン農場》絵具層欠損部分補彩後

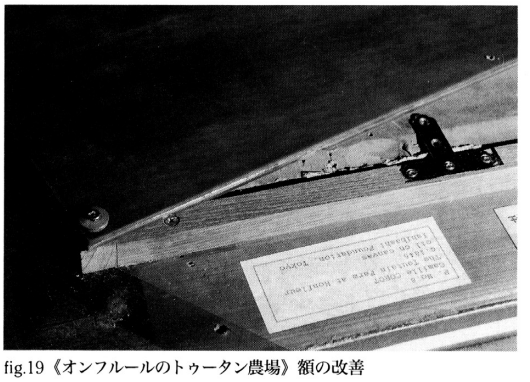


fig.19《オンフルールのトゥータン農場》額の改善

井上三綱《収穫》 1928年
油彩・麻布　69.0×118.0cm
石橋美術館

［作品の状態］

支持体は1cm²に14×18本の平織りの麻布である。

地塗り層の白色は油性である。簡単な検鏡法を行った結果，地塗り層には鉛白が含まれていた。

絵具層は厚く，主要色は淡いグレーで筆触を生かして描かれている。厚く塗り重ねられた絵具層には凸凹のあるマチエールが認められ，画面中央人物周縁の絵具層の凹面に金粉が認められる。

ワニス層は刷毛で不均一に塗られていた。

支持体はカンヴァス釘が数本抜け落ち，張りが弱くなって歪みが生じていた。

絵具層には支持体の歪みに伴った亀裂と剥落が見られ，裏面からの突傷による亀裂浮き上がりが数多く認められた。白色地塗りと支持体の接着が弱かったために生じた剥落が数箇所認められた。

画面の表層には経年による汚れと虫害が認められ，厚く不均一に塗布されたワニス層は黄変していた。さらに経年による黄変だけでなく作者が意図的に褐色を混ぜたワニスを塗布した痕跡も認められた。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 画面周縁耳の汚れを水で洗浄。
3. 絵具層の剥落，亀裂浮き上がり部分に膠を浸透させ，コテで接着。
4. 超音波加湿器で画面全体を洗浄。
5. 濃く黄変したワニスの部分だけをアルコールを含んだ溶剤で洗浄した。
6. 厚い絵具層の損傷部分をアクリル系接着剤498-20X（ラスコー社製）で接着。
7. 典具帖和紙で表打ち。
8. 作品を木枠から外し裏面掃除。
9. カンヴァス周縁の耳を平らに延ばす。
10. 裏面にワックスを塗布しホットテーブルを用いて含浸させる。
11. ワックス裏打ち。
12. 表打ちを除去し画面洗浄。
13. ワックスに顔料を混入した塑型剤を絵具の剥落した部分に充填し整形。
14. 充填部分にシェラックワニスを塗布後，ワニスB67を吹き付け。
15. 新調した木枠を加工し絵を張り込む。
16. 裏面処理。
17. アクリル樹脂絵具（イタリア　マイメリ社製）で補彩後，ワニスB67，B72の吹き付け。
18. 楔の打ち込み。
19. 処置後の写真記録（fig.22）。

fig.22　井上三綱《収穫》修復後全図

井上三綱《編み物》 1951年
油彩・洋紙　63.5×47.0cm
石橋美術館

［作品の状態］

支持体は厚手の洋紙で色はグレーである。薄く均一に塗られている白色地塗り層は水性で水に溶解する。

絵具層は油絵具で層が厚く，イエローオーカーと赤茶色を塗り，最後に焦茶色が塗られている。人物のフォルムは塗り重ねられた絵具層を鑢などで削り出す方法によって描かれ，背景には凹凸のあるマチエールが多く認められる。

ワニス層は刷毛で塗られ，全体に斑になっている。

作品は額装の窓マットにセロテープで固定されていたものであるが，セロテープの劣化により現状としては剥がれていた。

経年による支持体の劣化と吸湿乾燥が繰り返され，絵具層に亀裂浮き上がりと剥落が生じていた。画面周縁には支持体の破れが多く認められた。画面の大小さまざまな破れや欠損には，劣化によるものと作者が制作しているときに生じたものとが認められた。画面全体に縦方向の亀裂が多く認められた。画面全体にわたり絵具層表面に白色の斑点が認められた。下辺近く中央の剥落箇所には地塗り層の上に黒色が塗られていた。

裏面には破れを繕うために7カ所和紙が貼られていた。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 画面側から絵具層の亀裂浮き上がりと剥落部分にアクリル樹脂系接着剤を塗布し加熱接着。
3. 窓マットと作品に貼られたセロテープと糊分を除去。
4. 支持体裏面に貼られていた繕い用の紙の除去。
5. 裏面掃除。
6. 画面周縁支持体の欠損部分にほぼ同じ素材の洋紙で繕い。
7. 画面全体を石油系溶剤で洗浄。
8. 薄い和紙にビニール樹脂系接着剤を転写しホットテーブル上で裏打ち。
9. 作品より一周り大きな木枠に仮張りしプレスして変形を修正。
10. 裏打ちした作品をハニカムコアパネルに張り込み裏面処理。
11. 剥落欠損部分に石膏充填し整形。
12. 充填部分にシェラックワニスを塗布しB67ワニスを塗布。
13. アクリル樹脂絵具で補彩し補彩箇所にB67ワニスを塗布。
14. 裏面にラベルを装着。
15. 処置後の写真記録(fig.23)。
16. 報告書の作成。

fig.23　井上三綱《編み物》修復後全図

井上三綱《ドン・キホーテ》 1954年
石膏，墨・洋紙　54.0×38.0cm
石橋美術館

［作品の状態］

支持体は市販されている機械抄きの一般的な画用紙と思われる。裏面を観察すると細かな凹凸がつけられていた。画面側では下地が塗られているので滑らかである。描画層を含めての厚みは0.374mmである。支持体そのものはこの数値よりもやや薄い。

薄く均一に塗られている白色地塗り層に墨で全面を黒く塗り，引っ掻き線によって白い線が現れる。線の部分はさらにパステルかコンテの白で強められる。また，部分的に湿らせて画面を拭き取るとグレーの調子が得られる。ピンクのパステルの線も見出だすことができる。現在は表面の墨の黒色は容易には水に溶解しない。

裏面には，引っ掻きの線が凸になって現れている。さらに，グレーの線で画面の構図がなぞられていた。

作品は画面側に凸に緩やかに変形が認められる。裏面にはセロテープの接着剤による黄変箇所が7カ所ある。画面左下角には斜めに折れが生じていた。画面の四隅と上辺中央に，画鋲の穴が集中していることから，この作品は壁に鋲で止められていたと思われる。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 裏面に付着した黄変した接着剤をメスで除去した。
3. 折れの部分を裏面から和紙で繕った。
4. 裏面の周縁に和紙を貼り乾燥させた。
5. ゴアテックスで全体に湿りを与え，仮張りに貼って作品を平らにした。
6. 画鋲穴の欠損部分に石膏充填し整形。
7. 充填部分に水彩絵具とパステル色鉛筆で補彩をした。
8. 仮張りから分離。
9. 処置後の写真記録(fig.24)。
10. 報告書の作成。

fig.24　井上三綱《ドン・キホーテ》修復後全図

井上三綱《裸婦群像》 1955年
石膏，水彩・洋紙　78.1×40.3cm
石橋美術館

［作品の状態］

この作品で支持体を観察できるのは右下角の削り取られた部分の厚紙のように見える断面だけである。厚紙に色を混ぜた石膏を塗り，引っ掻きの線や水彩絵具の塗り重ね，削り取り，油を塗った面に水彩絵具を落として絵具が粒状に撥けた状態などさまざまな技法が使われている。

作品は丈夫な洋紙に裏打ちされ，周りに朱色の細い紙が付けられて白い紙が当てられた上で，パネルに和紙で接着されていた。そのパネルにはすでに作品が半ばまで描かれていたものが使用されていた(fig.26)。

作品の主たる損傷は，絵具層に見られた剥落である。プルシャンブルーの絵具が全体として接着不完全の状態であって，作品を垂直に立てるだけで，粉のように青色の粒が落下するのであった。

明らかに絵具層の剥落と見られる箇所も認められたが，技法から考えて，損傷か制作当初からの意図に基づく剥落かが見分けにくく，剥落が鋭角的で，下から白色が出ている部分だけを制作後の損傷と判断した。

周縁の白色の紙に汚損が生じていた。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 濃い青色の絵具の粒をクルーセルG(セルロース系の艶の出ない接着剤)を使用して一粒ごとに画面に接着した。
3. 接着が完了した画面をパネルから分離し，一周り大きな木枠に和紙で固定し裏面の和紙を整理し，補強をした。
4. ハニカムコアを内蔵し，ミュージアムボードを両面に貼ったパネルを作品の支持体として新たに用意した。木枠から分離した作品の裏面にごく僅か湿りを与え，パネル側面の木質部だけに生麩糊を塗り，作品の周囲をパネルに固定した。
5. 絵具層の欠損部を石膏で充填し，水彩絵具とパステル色鉛筆で補彩した。
6. 過酸化水素水で周縁の汚損を部分的に漂白し洗浄。
7. 処置後の写真記録(fig.25)と報告書の作成。

井上三綱《相》 1960年
水彩，油彩・洋紙　39.6×18.5cm
石橋美術館

［作品の状態］

作品の支持体は0.238mmの厚みのケント紙と思われる洋紙である。

描画部分の絵具は水に溶解せず，主として油絵具が使用されている。黒色は墨汁と思われる。鉛筆の線も見える。飛沫状の緑色に，青や緑を垂らし，艶のある黒色，かすれた赤色などを使って描かれた後，現在の形に切断され，作品の裏面に数カ所糊を付けて台紙に固定されていた。

作品に損傷は認められないが，台紙は著しく劣化し黄変していた。作品を中心に放射状に変形し，作品自体も糊のついた部分とつかない部分との不均衡のため，歪みが生じていた。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 台紙と作品の分離。
3. 作品の裏面を洗浄した。
4. ゴアテックスシートを通して作品に湿りを与え，吸取紙に挟んでプレスした。
5. 処置後の写真記録(fig.27)と報告書の作成。

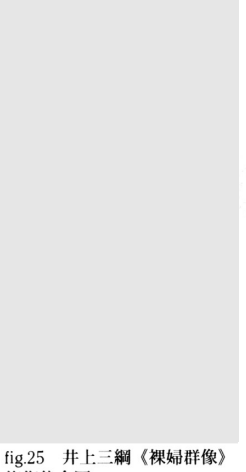


fig.25　井上三綱《裸婦群像》修復後全図

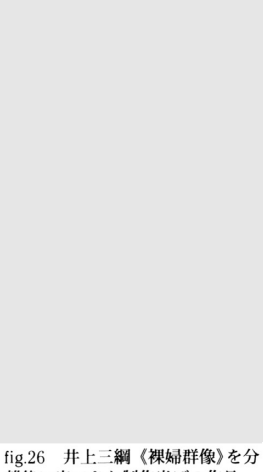


fig.26　井上三綱《裸婦群像》を分離後に出てきた制作半ばの作品

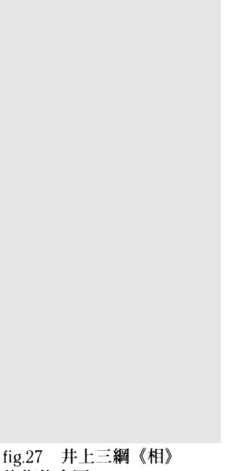


fig.27　井上三綱《相》修復後全図

井上三綱《桃李美人図》 1969年頃
水墨・和紙　40.9×31.8cm
石橋美術館

［作品の状態］

支持体は柔らかな手触りのやや肉厚の画仙紙と思われる。糸目の巾は3cm，水分が非常に浸透し易い。色は白色である。

濃い墨で一息に人物の輪郭が描かれた後，グレーの濃淡の背景が描かれ，濃淡の墨によって文字や樹木が配され，最後に顔彩で彩色が施されている。

作品は折り畳まれていたのか，横に6本の折れが認められた。また細かな皺が各所に生じていた。グレーの背景の中に褐色の粒状の付着物が数多く見られた。

付着物を除去したあとには褐色の汚損が生じていた。画面の左片上部に小さな半月型の欠損が認められた。赤色は水に溶け出しやすかった。

［処置の概要］

1. 処置前の調査・写真記録。
2. 画面に付着した黄変した粒をメスで除去した。
3. サクションテーブルの上で，霧状の水分で支持体の洗浄をした。
4. アンモニアを加えた過酸化水素水で部分的に漂白と洗浄し，その部分を水洗した。
5. 和紙で支持体の欠損部を繕った。
6. ゴアテックスを通して全体に湿りを与え，作品を平らにした。
7. 和紙による裏打ちを行った。
8. 仮張りに貼り，補填部分に水彩絵具とパステル色鉛筆で補彩をした。
9. 仮張りから分離。処置後の写真記録(fig.28)と報告書の作成。

（以上6点，山領絵画修復工房　山領まり，多田智）

小杉未醒《山幸彦》 1916年
油彩・麻布　194.6×300.5cm
石橋美術館

［作品の状態］

ワニスは旧処置によるものと考えられる。黄化がみられ汚れがかなり付着し，艶のないマットな質感である。

絵具は極く薄塗りで，かすれた筆跡の下から地塗りがみえる。画面中央の樹木と右辺中程の岩部分に細かい亀裂がみられ，剥落もおきているが絵具層のかすれと判別しがたい。画面周辺部分には地塗り層からおきた浮き上がりと剥落がみられる。

手製のカンヴァスで地塗りは白色である。

支持体は亜麻布で平織りである。織り糸数は1cm²当たり経糸16本，緯糸13本である。過去に何度か張り直されており，支持体の耳部分には釘穴や破れが多数生じてかなり劣化している。処置前の作品の外寸法(木枠寸法)は1925×2959mmであるが，画面寸法は1962×2994mmであり，天地・左右それぞれ約35mm縮めて張り直されている。特に上辺と左辺は画面部分がかなり折り込まれている。そのため，上辺では図柄が隠れてしまい，左辺では下部にある花とサインが額装した場合半ば隠れてしまう。また，張りが弱いため下辺左半分がたるんでいる。

裏面には旧処置として和紙による裏打ちが施されているが，部分的に和紙が外れて支持体に凸凹の変形が生じている(fig.31)。和紙の大きさは不均一であり，100枚近くをベタ貼りで貼り継いであるが，中央部分に破れがある(fig.30)。木枠は杉材で楔及び楔穴はない。中桟は長手に1本，短手に3本はいっている。

［処置の概要］

1. 写真撮影(fig.29)，状態調査。
2. 浮き上がり接着：折り込まれていた画面部分の剥落止めには膠水を使用し，その他の部分にはパラロイドB72を使用した。

fig.28　井上三綱《桃李美人図》修復後全図

fig.29　小杉未醒《山幸彦》修復前全図 表

3. ワニス除去：ミネラルスピリットとアセトンの混合液を使用した。この際，状態調査の段階では金箔が貼られていると思われた部分（左上隅の森・壷・太刀・首飾り）には金箔ではなく，銀箔が貼られていることが判明した。銀箔の上のワニスの黄化によって金箔とみえたのである（fig.32）。
4. 画面洗浄：希アンモニア水，及び純水を使用した。
5. 耳補強：木枠より取り外した後，帯状に切った麻布を四辺の耳部分にBEVA371シートを用いて接着し補強した。
6. 旧裏打ち和紙除去：支持体の収縮を防ぐためパネルに固定し，薄く削った竹ベラを和紙と支持体との間に滑り込ませて剥いでいった。接着剤は完全に乾燥・固化していたが塗布量にむらがあり，接着剤の量が少ない部分では極めて接着力が弱く容易に和紙を除去することができたが，多い部分では接着力が強く和紙の除去が困難であるため和紙を加湿した後メスで削りとった。支持体に残った接着剤は加湿・軟化させた後，やはりメスで削りとった（fig.33）。
7. 支持体張り直し：裏面をエタノールで殺菌した後，新調した木枠に張り直した。木枠を新調した理由は
   1）オリジナルのものでない
   2）画面寸法と合わない
   3）楔及び楔穴がないため張りの調整ができない
   4）中桟が短手は3本あるが長手は1本のみであるため，強度に劣る
   以上である。
   折り込まれている画面部分については美術館側との協議の結果，元に戻すこととした。
8. 充填整形：絵具層の欠損部分に炭酸カルシウムと合成樹脂を練り合わせたものを充填し，周囲のマチエールに合わせて整形した（fig.34, 35）。
9. 殺菌：画面にチアベンダゾールを主剤とする防黴剤を塗布した。
10. 補彩：充填整形箇所に，溶剤型アクリル絵具及び修復用樹脂絵具にて補彩を施した。
11. ワニス塗布：下層にダンマル樹脂，上層にケトン樹脂を塗布した。処置前の状態においては汚れの影響で艶がまったくなかったため，他の小杉の作品と同様に極めて艶のない日本画的な質感に感じられた。そのため，美術館側から「ワニスは塗布しない方が望ましいのではないか」という意見もあった。しかし，画面洗浄後に汚れが落ちると艶のある絵具層が現れたため，美術館側と協議の上，画面保護のためにごく薄くワニスを塗布することにした。
12. 修復後の写真撮影：なお，修復中の工程毎にも必要に応じた写真撮影を行った（fig.36, 37）。

［和紙と水溶性糊による裏打ちについて］

戦前においては油彩画を取り扱う修復家が極めて少なく，また費用もかなり高額であったため，作品が破れたりして修復が必要になった場合，表具師に和紙で裏打ちしても

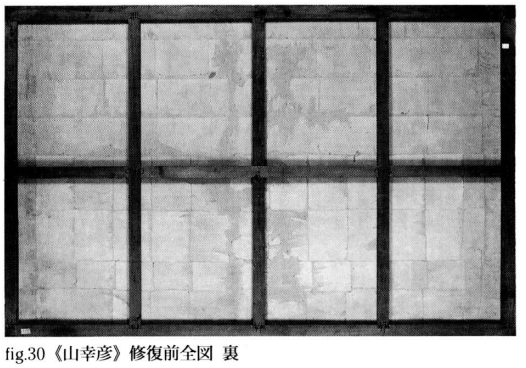


fig.30《山幸彦》修復前全図 裏

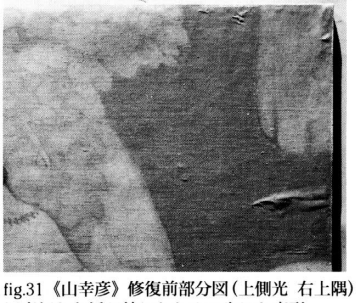


fig.31《山幸彦》修復前部分図（上側光 右上隅）
旧裏打ち和紙が外れたために生じた変形

flg.32《山幸彦》ワニス除去中

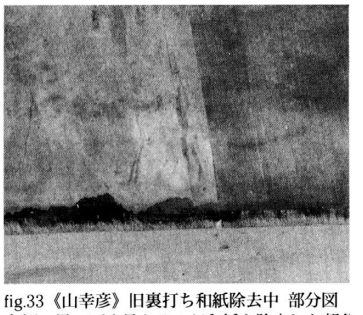


fig.33《山幸彦》旧裏打ち和紙除去中 部分図
右側の黒っぽく見えるのが和紙を除去した部分

らうようなことがあったという。

戦後昭和30年代になって，寺田春弌氏が日本の優れた装潢技術を油彩画の修復に活用することはできないかと考え，氏の監修のもと東京藝術大学芸術資料館の油彩画作品に対し和紙による裏打ちが行われている。当時この修復に携わった東京藝術大学の歌田氏によると，和紙による裏打ちが行われた後，乾燥を待って仮張りから外し木枠等に固定せず修復作業を行い，約半年後に木枠に固定したとのことである。裏打ちしてから木枠に固定するまで長期間経過しており，裏打ちして後数年して亀裂・浮き上がり・剥落等の損傷が現れた作品があるのは，木枠に固定するまでの間に和紙が伸縮して支持体・絵具層に影響を与えたためと想像出来る。また損傷が現れたのは絵具層の薄い作品がほとんどであり，絵具層の薄い作品ほど変形を生じやすいといえる。

当研究所ではこれまで，前述の東京藝術大学芸術資料館の作品[1,2,3]を含め，和紙によって裏打ちされた作品の再修理を相当数行ったが，多くの作品に共通してみられるのは裏打ち和紙の収縮によって引き起こされたと考えられる支持体の変形である。例えば徳永柳州の作品[4]の場合和紙を継いで貼ってあるが，継ぎ目を喰裂にしていないために継ぎ目が重くなり支持体が波打ったように変形している。保存状態が悪いと，このような傾向はより顕著なものとなる。また，今回修復した小杉の作品の場合，地塗り層・絵具層が薄く変形が起こりやすかったうえ保存状態にも問題があったのではないかと考えられる。支持体の変形によって作品の平面性が失われると地塗り層・絵具層に亀裂・浮き上がり・剥落といった損傷が生じることとなる。その他，糊料の接着力を上げようと濃度を高くした結果糊料の量も多くなり支持体を硬化させている場合もある。硬化して柔軟性を失った支持体はわずかな衝撃でも影響を受けやすい状態にある。

和紙と水溶性糊による裏打ちは，作品の画調を変化させることなく行うことができる，または後の再修理の際に除去が容易である，といった利点もあるが，加湿・乾燥による伸縮を伴うため，カンヴァスを支持体とした油彩画への裏打ちとしては適当な修復方法とはいえない。また，地塗り層・絵具層の補強という観点から考えてもほとんど効果は期待できない。　　（創形美術学校修復研究所　増田久美）

註

1）歌田眞介「和紙で裏打ちされた油彩画の再修理」（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 3, 1984, 頁2-3）

2）渡辺一郎「和田英作　渡頭の夕暮」「岡田三郎助　西洋婦人像」修理報告（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 3, 1984, 頁4-6, 10-11）

3）木島隆康「五姓田義松　操芝居」修理報告（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 3, 1984, 頁7-9）

4）三ツ山三郎「徳永柳州　慰霊堂・復興記念館作品群」修復報告（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 5, 1985, 頁7-10）

三ツ山三郎，外山裕美「徳永柳州　東海道根府川付近の崩壊」修復報告（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 5, 1985, 頁11-14）

三ツ山三郎「徳永柳州（仁臣）上野公園より見たる灰燼の帝都」修復報告（『創形美術学校修復研究所報告』Vol. 6, 1986, 頁10-13）

fig.34《山幸彦》充填整形 部分図　左下隅のサインと花

fig.35《山幸彦》充填整形 部分図（上辺右端）
処置前は折り込まれていた部分

fig.36《山幸彦》修復後全図 表

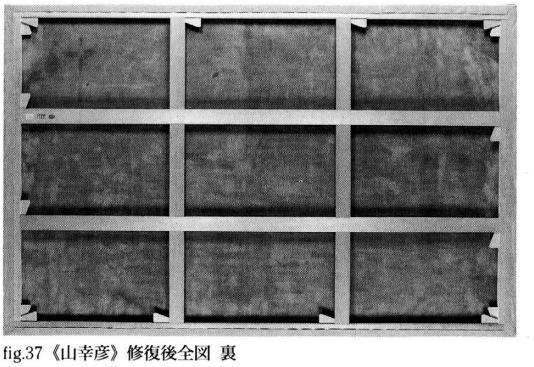


fig.37《山幸彦》修復後全図 裏

坂本繁二郎関連記事目次(1981年－1990年)

後藤純子
植野健造

本目次は，昭和32年から石橋美術館において作成し所蔵している新聞切り抜き帳の中から坂本繁二郎に関する記事を採取し，昭和56年1月から平成2年12月までの期間に限って一覧表としたものである。なお，石橋美術館所蔵の新聞切り抜き帳における新聞記事の収集状況と整理法，ならびに昭和32年から昭和44年までの期間の坂本繁二郎関連記事目次については『館報』第42号で[1]，また昭和45年から昭和55年までの期間の坂本繁二郎関連記事目次については『館報』第43号で報告した[2]。本目次の凡例については『館報』第42号の報告に掲げた凡例2)－4)と同様であるが，今回採取記事に夕刊である記述があったものについてはそれを記した。また，左端の番号は前号から連続しており，とおし番号となっている。

(ごとうじゅんこ　うえのけんぞう　石橋美術館)

註

1)後藤純子，植野健造「石橋美術館所蔵新聞切り抜き帳について　附:坂本繁二郎関連記事目次(1957年－1967年)」『ブリヂストン美術館　石橋美術館　館報』第42号，平成6年10月

2)後藤純子，植野健造「坂本繁二郎関連記事目次(1970年－1980年)」『ブリヂストン美術館　石橋美術館　館報』第43号，平成7年12月

坂本繁二郎関連記事目次 (1981年－1990年)

	新聞紙名	発行年月日	夕刊	切抜帳	執筆者	見出し
880	西日本	1981年02月03日		1981-1		坂本繁二郎の静物画大作　「甘藍」九州へ帰る　生誕100年に朗報　東京の愛蔵家から購入へ　大分県立芸術会館
881	信濃毎日	1981年02月07日		1981-3	植村鷹千代	この1点　石橋美術館　久留米市　海の幸　青木繁　詩情豊かに裸の群像
882	西日本	1981年02月23日		1981-1	岸田勉	再読しても清新な印象　『坂本繁二郎の道』　谷口治達著
883	朝日	1981年02月25日		1981-2	源弘道	青木繁と坂本繁二郎　生誕100年に寄せて　ライバル意識を土台に飛躍　表向きは「親密な間柄」通す
884	西日本	1981年02月25日		1981-3		〈近況〉　坂本芸術論まとめたい　岸田勉
885	朝日	1981年02月27日		1981-1		『増補　坂本繁二郎作品全集』　朝日新聞社刊　〈広告〉
886	毎日	1981年02月27日		1981-3		文化講演会　八女文化連盟などが3月1日10時から八女市町村会館小ホールで，岸田勉・石橋美術館長が「坂本繁二郎先生の青春時代」
887	西日本	1981年02月28日		1981-3		坂本画伯をしのぶ講演会　八女
888	西日本	1981年03月01日		1981-3		〈ハゼ並木〉　丸山豊氏がテレビ出演　…『私と坂本繁二郎』と題してNHKのアナウンサーと対談。…
889	西日本	1981年03月02日		1981-3	岸田勉	〈文化〉　坂本繁二郎のデビュー　生活のためジャーナリストも志す
890	読売	1981年03月02日		1981-1		巨匠・繁二郎しのぶ　八女　銅像清掃や講演会
891	東京	1981年03月17日	夕	1981-3	岸田勉	〈文化〉　坂本繁二郎のデビュー

892	読売	1981年03月19日		1981-1		老画家，自費で美術館　収集した名画を展示　大木町の池上さん　「郷土への置き土産」
893	朝日	1981年03月22日		1981-2		〈ギャルリ・ユニーク〉　久留米・石橋美術館　久留米市
894	読売	1981年03月23日	夕	1981-3	岸田勉	〈文化〉　青木繁の『呪い』と坂本繁二郎の『涙』　作品に流れる青春の苦悩
895	西日本	1981年04月06日		1981-1		自前で美術館　『郷土のお役に…』　大木町の洋画家　池上丁一さん　名画80点を無料公開
896	読売	1981年04月06日		1981-1		『ふるさと美術館』オープン　大木町の二科会審査員・池上さん　「80歳の記念」　繁二郎，青児も展示
897	フクニチ	1981年04月08日		1981-1		ふるさと美術館　老画家・池上さんが建設　私費投じ　繁二郎やピカソなど87点　三潴
898	西日本	1981年04月19日		1981-3	谷口編集委員	25周年迎えた石橋美術館　きらめく青木，坂本，古賀　九州が生んだ珠玉ずらり　全国屈指のコレクション
899	西日本	1981年04月25日	夕	1981-3	岸田勉	石橋美術館の25年　地域文化に果たした役割
900	読売	1981年05月07日	夕	1981-1		〈新刊〉　『西日本画壇史』　谷口鉄雄著
901	西日本	1981年06月22日		1981-1		400年の変遷たどる　『西日本画壇史―近代美術への道』　谷口鉄雄著
902	フクニチ	1981年06月22日		1981-3		〈施設あんない〉　石橋美術館　久留米市　目玉は青木繁や坂本繁二郎
903	フクニチ	1981年06月29日		1981-1		故坂本画伯“幻の大作”肉弾三勇士　生誕百年祭（来年）に顔見せ？　筑後の個人で秘蔵のウワサ　石橋美術館　申し出呼びかけ
904	日本経済	1981年07月04日	夕	1981-3		〈わがまち散歩館〉　耳を澄ませば天才の語らい
905	西日本	1981年07月08日		1981-3	渡辺啓一郎	〈石橋美術館だより〉　坂本画伯のアトリエ　上　人柄しのばれる質素さ　昨年3月，一般に公開
906	朝日	1981年07月22日	夕	1981-1	源	北九州市立美術館の新収蔵品展　目玉は近・現代美術
907	西日本	1981年08月19日		1981-3	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉　『森三美作品と資料展』　筑後が生んだ画才　森三美　繁二郎も教え受ける
908	毎日	1981年08月20日		1981-1	晴	坂本，海老原，小出ら　注目集める作品　新たに　新収蔵品展　北九州市立美術館
909	西日本	1981年09月02日		1981-4	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉　森三美作品と資料展　(3)　教材に英国の油彩画　帰郷，後進の指導に当る
910	毎日	1981年09月05日	夕	1981-4		坂本繁二郎の“非戦”絵画紹介　RKB毎日　山本学をナレーターに
911	西日本	1981年09月09日		1981-4	橋富博喜	〈石橋美術館だより〉　森三美作品と資料展　(4)　坂本より構図に熟練　青木と同じモデル描く
912	西日本	1981年09月11日	夕	1981-4		〈娯楽〉　再度，繁二郎と取り組む　RKB創立30周年記念番組　ドキュメンタリー『絵描きと戦争』
913	西日本	1981年09月12日	夕	1981-4		〈展覧会〉　森三美・作品と資料展
914	西日本	1981年09月12日	夕	1981-4		〈展覧会〉　久我美術研究展示館第6回展
915	朝日	1981年09月13日		1981-4	己	〈TVしかけ帳〉　画家　…RKB制作の「絵描きと戦争」は，洋画家・坂本繁二郎の人生を追うドキュメンタリーだ。…

916	西日本	1981年09月13日		1981-4		絵描きと戦争(RKB＝後3・0) 〈番組紹介〉
917	フクニチ	1981年09月13日		1981-4		RKB創立30周年記念番組 絵描きと戦争 戦争と芸術…坂本繁二郎など戦火の中で闘った画家たち
918	毎日	1981年09月13日		1981-4		森三美作品展始まる 久留米・石橋美術館 油絵など46点出品 青木，坂本両画伯 修業時代にも興味
919	読売	1981年09月13日		1981-4		森三美の作品展 石橋美術館 坂本繁二郎・青木繁の先生
920	西日本	1981年09月15日		1981-4		森三美特別展 久留米
921	フクニチ	1981年09月15日		1981-4		近代洋画壇の“師弟”浮き彫り 石橋美術館 森の作品36点展示 弟子・青木，坂本の習作も
922	読売	1981年09月17日	夕	1981-4		〈展覧会案内〉 久我美術研究展示館・第六回展
923	朝日	1981年09月19日	夕	1981-4		〈展覧会〉 久我美術研究展示館第6回展
924	読売	1981年09月21日	夕	1981-4		〈手帳〉 繁二郎らに絵の手ほどき 森三美の作品，資料展開く 石橋美術館
925	毎日	1981年09月24日	夕	1981-4		青木繁，坂本繁二郎の師―美術史の空白埋める 森三美作品と資料展
926	朝日	1981年09月26日	夕	1981-4	源	〈美術〉 森三美・作品と資料展 坂本繁二郎・青木繁に手ほどき 似ている師弟の絵
927	西日本	1981年10月12日	夕	1981-5	谷口	〈文化〉 筑後美術の源流 青木，坂本とも比較展示 森三美―作品と資料展
928	毎日	1981年10月18日	夕	1981-5	木村栄文	画家・坂本繁二郎の隠棲 西欧絵画との懸隔埋める苦闘しつつ あえて“里の地獄”に 「家庭の不幸隠ぺい説」は的外れ
929	朝日	1981年11月01日		1981-6		3日に帰居祭 文化祭も開幕 八女市
930	西日本	1981年11月02日	夕	1981-6		繁二郎が“幻の初期作品” 初入選作と同時出品 50号の『伊豆山村』 存在示す“図録”発見
931	フクニチ	1981年11月02日		1981-6		坂本画伯“幻のデビュー作” 50号の大作 「伊豆山村」 明治40年の東京勧業博に出品 掲載された図録発見
932	西日本	1981年11月04日		1981-6		坂本画伯の『帰居祭』 偉業たたえ文化発展誓う
933	毎日	1981年11月13日		1981-6		久留米史彩る3717人 篠原さんのライフワーク 「久留米人物誌」完成
934	フクニチ	1981年11月17日		1981-6		郷土の“星”3717人の物語 ベテラン郷土史家の篠原さんが出版 「久留米人物誌」 壮大な“歴史絵巻”
935	読売	1981年12月01日		1981-6		社会教育への情熱つづる 前八女市助役・平島さんがエッセー集 坂本繁二郎交遊録も 増刷問い合わせ相次ぐ
936	フクニチ	1982年01月10日		1982-1		西日本文化(177号) 文化雑誌。 …岸田勉 「評伝 坂本繁二郎(2)」 (福岡市中央区薬院四丁目13－51 財団法人・西日本文化協会)
937	読売	1982年01月19日		1982-1		青木と坂本生誕100年 天才と哲人の足跡たどる (11) 坂本繁二郎「北茂安の一部」明治40年作 「堅実な」デビュー作
938	読売	1982年01月20日		1982-1		青木と坂本生誕100年 天才と哲人の足跡たどる (12) 坂本繁二郎「張り物」明治43年作 新婚の妻がモデル

939	読売	1982年01月21日		1982-1		人気呼ぶ版画展
940	読売	1982年01月21日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(13)　坂本繁二郎「うすれ日」大正元年作　評価分かれる秀作
941	読売	1982年01月22日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(14)　坂本繁二郎「魚を持ってきた海女」大正2年作　にじみ出る生活色
942	西日本	1982年01月23日		1982-1		〈画廊〉　版画展
943	フクニチ	1982年01月23日		1982-1		版画展
944	読売	1982年01月26日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(16)　坂本繁二郎「帽子を持てる女」大正12年作　パリ修業時代の作
945	読売	1982年01月27日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(17)　坂本繁二郎「放水路の雲」昭和2年作　滞欧生活後の作品
946	読売	1982年01月28日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(18)　坂本繁二郎「母の像」昭和2年作　「進まなかった筆」
947	読売	1982年01月29日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(19)　坂本繁二郎「放牧三馬」昭和7年作　印象的　緑のひとみ
948	読売	1982年01月30日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(20)　坂本繁二郎「砥石」昭和18年作　戦時下漂う緊張感
949	読売	1982年02月02日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(21)　坂本繁二郎「能面」昭和23年作　深い「わび」の情緒
950	読売	1982年02月03日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(22)　坂本繁二郎「箱」昭和34年作　八女市に贈った絵
951	読売	1982年02月04日		1982-1		青木と坂本生誕100年　天才と哲人の足跡たどる　(23)　坂本繁二郎「月」昭和41年作　絶筆を宇宙に託し
952	読売	1982年02月16日		1982-1		『美の鏡の前で』松永伍一著(アディン書房，2000円)
953	朝日	1982年02月21日		1982-1		生誕100年記念　坂本繁二郎展　7月に久留米で　〈社告〉
954	フクニチ	1982年03月01日		1982-2		今年は坂本画伯生誕100年目　八女市，多彩な催し　あす映画と講演の夕べ
955	西日本	1982年03月03日		1982-2	谷口編集委員(聞き手)	聞き書きシリーズ　彫心澄明　冨永朝堂　(23)　筑前美術会結成
956	西日本	1982年03月03日		1982-2	田内正宏	〈石橋美術館だより〉『近代洋画と久留米』にちなみ　来目会の85点に焦点
957	読売	1982年03月03日		1982-2		坂本繁二郎生誕100年祭　巨匠の偉業しのぶ
958	朝日	1982年03月04日		1982-2		坂本繁二郎と青木繁の両画伯　生誕100年で記念行事　八女市の銅像前で　まず坂本氏碑前祭
959	西日本	1982年03月04日		1982-2		人柄と画業しのぶ　坂本繁二郎の生誕百年祭　八女

960	フクニチ	1982年03月06日		1982-2		〈プロムナード〉　2人の郷土画家　坂本繁二郎・藤田吉香作品展
961	西日本	1982年03月12日		1982-2	谷口編集委員(聞き手)	聞き書きシリーズ　彫心澄明　冨永朝堂　(32)　坂本画伯のこと
962	西日本	1982年03月13日		1982-2	谷口編集委員(聞き手)	聞き書きシリーズ　彫心澄明　冨永朝堂　(33)　法隆寺の唐草文
963	西日本	1982年03月13日	夕	1982-2		〈展覧会〉　青木繁・坂本繁二郎生誕百年記念「近代洋画と久留米」展　〈告示〉
964	西日本	1982年03月19日		1982-2	谷口編集委員(聞き手)	聞き書きシリーズ　彫心澄明　冨永朝堂　(39)　再上京はやめる
965	朝日	1982年03月20日	夕	1982-2		〈展覧会〉　青木繁・坂本繁二郎小品展
966	西日本	1982年03月20日		1982-2		市内の中，高校に寄贈　『坂本繁二郎全版画集』　故岸田石橋美術館長の遺族
967	毎日	1982年03月20日		1982-2		青木繁　坂本繁二郎　輝く筑後画壇源流探ると…「近代洋画と久留米」展始まる
968	毎日	1982年03月20日		1982-2		坂本繁二郎全版画集30冊を寄贈　美術館長夫人が久留米・八女市に
969	朝日	1982年03月21日		1982-2		〈むつごろう通信〉　「繁二郎全版画集」贈る
970	読売	1982年03月21日		1982-2		久留米市へ画集寄贈　故岸田館長の遺族
971	朝日	1982年03月22日		1982-2		〈お知らせ〉　青木繁・坂本繁二郎小品展
972	朝日	1982年03月24日		1982-2		『増補　坂本繁二郎作品全集』　朝日新聞社　〈広告〉
973	西日本	1982年03月24日	夕	1982-2		〈展覧会〉　青木繁・坂本繁二郎小品展
974	読売	1982年03月31日		1982-2		求龍堂『坂本繁二郎の道』谷口治達著　〈広告〉
975	朝日	1982年04月03日		1982-2		〈人〉　赤い着物も画家には刺激的
976	読売	1982年04月05日	夕	1982-2	健	小品にも二人の資質　青木繁・坂本繁二郎小品展
977	毎日	1982年04月06日	夕	1982-2	田中幸人記者	「実感幻想」の世界　無類の絵バカ，生誕百年　坂本繁二郎展
978	朝日	1982年04月07日	夕	1982-2	源	〈美術〉　大胆さと洗練味同居　地味だが深い内面性　青木繁・坂本繁二郎　福岡で小品展
979	毎日	1982年04月15日	夕	1982-2	関野弘記者	〈ふるさと日記　おりおりの宿〉　坂本繁二郎(福岡県八女市)　平凡なものに非凡な筆　ひたすら目立たず語らず…
980	朝日	1982年04月26日	夕	1982-2	東野芳明	坂本繁二郎展を見て　物の存在感，もやのかなたに
981	朝日	1982年06月09日		1982-3		感動呼ぶ幽玄の世界　生誕百年記念し繁二郎展　〈社告〉
982	朝日	1982年06月09日		1982-3		「筑紫五景」の版画復刻版25組を発売　〈社告〉
983	朝日	1982年06月10日		1982-3		生誕100年記念　坂本繁二郎展　来月10日　久留米で開催　〈社告〉
984	西日本	1982年06月20日		1982-3		「麗子肖像」を特別展示　久留米　坂本繁二郎，藤田嗣治…など現代洋画家の名画の数々を展示した「現代洋画秀作展」が十九日から久留米井筒屋七階ホールで始まった。…
985	西日本	1982年06月23日	夕	1982-3	下川都一朗(文と絵)	坂本先生のこと　生誕百年展に思う

986	西日本	1982年06月26日	夕	1982-3	赤星孝	追想の坂本繁二郎　(上)
987	朝日	1982年06月28日		1982-3		〈お知らせ〉「筑紫五景」の版画復刻版発売
988	西日本	1982年06月28日	夕	1982-3	赤星孝	追想の坂本繁二郎　(中)
989	西日本	1982年06月29日	夕	1982-3	赤星孝	追想の坂本繁二郎　(下)
990	西日本	1982年07月01日		坂本展'82	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(1)　画壇に着実な一歩　故郷にモチーフ求める
991	毎日	1982年07月01日		坂本展'82		本物は依然金庫　八女市役所　坂本繁二郎作「箱」の複製画　やっと市民の目に
992	西日本	1982年07月02日		坂本展'82	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(2)　“哲学画家”の異名　描くべき真実を深く追求
993	朝日	1982年07月03日		坂本展'82		坂本繁二郎展　テープカット　モデルの鋏を使用
994	西日本	1982年07月03日		坂本展'82	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(3)　色彩美しい滞欧作　自然と人間を徹底研究
995	西日本	1982年07月03日		坂本展'82		繁二郎の複製画展示
996	朝日	1982年07月04日		坂本展'82		坂本繁二郎展　社宝　「モーター」を描く
997	西日本	1982年07月04日		坂本展'82	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(4)　余韻満ちる日本美　探求まず雲との対話から
998	西日本	1982年07月05日		坂本展'82	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(5)　九州に似合う“馬”　詩情とともに神秘感も
999	西日本	1982年07月06日		1982-4	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(6)　有と無混然の世界　平凡でいて非凡な静物
1000	朝日	1982年07月07日		坂本展'82		10日から坂本繁二郎展　生誕百年　久留米で　〈PR版〉
1001	朝日	1982年07月07日	夕	坂本展'82		作品搬入始まる　石橋美術館の坂本繁二郎展
1002	朝日	1982年07月07日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(1)　誠実一途　自分を飾らぬ「絵バカ」
1003	朝日	1982年07月07日		坂本展'82		坂本繁二郎展　大家と孫　画風吸収に3年間
1004	西日本	1982年07月07日		1982-4	谷口編集委員	幽玄の美の軌跡　坂本繁二郎展から　(7)　深い東洋の精神史　戦後，描き始めた能面
1005	朝日	1982年07月08日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(2)　ライバル　「流星」青木と好対照
1006	朝日	1982年07月08日		坂本展'82		坂本繁二郎展　七転八起　励まし込めて贈る
1007	西日本	1982年07月08日	夕	坂本展'82		繁二郎画伯の人柄しのび　写真と版画展―八女市の樋口文化学院
1008	朝日	1982年07月09日		坂本展'82		水彩画も初出品　坂本繁二郎展　あすから石橋美術館で
1009	朝日	1982年07月09日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(3)　考える絵　“哲人画家”独特の作風
1010	朝日	1982年07月09日		坂本展'82		坂本繁二郎展　亡き館長　郷土で開催が夢
1011	朝日	1982年07月10日		坂本展'82		きょうから「坂本繁二郎展」　久留米の石橋美術館
1012	朝日	1982年07月10日	夕	坂本展'82		ゆかりの顔・顔…次々に　繁二郎展　モデルの鋏でテープ切り
1013	朝日	1982年07月10日	夕	坂本展'82	増田洋	〈文化〉　自然を描き，現実を追求　私が理解した坂本繁二郎

1014	朝日	1982年07月10日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(4)　モナリザ　同じポーズ描き挑戦
1015	西日本	1982年07月10日	夕	1982-4		〈展覧会〉　坂本繁二郎展
1016	朝日	1982年07月11日		坂本展'82		家族連れなどで大盛況　久留米　坂本繁二郎展始まる
1017	毎日	1982年07月11日		坂本展'82		坂本繁二郎生誕百年記念　幽玄の世界にため息
1018	朝日	1982年07月12日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(5)　虚心　対象も自分も生かす
1019	朝日	1982年07月12日		坂本展'82		八女でも“坂本繁二郎展”　写真や版画120点　14日から樋口文化学院
1020	西日本	1982年07月12日		坂本展'82	真藤アヤ	坂本繁二郎と私　やさしさと厳しさと
1021	フクニチ	1982年07月12日		坂本展'82		初期から晩年の135点一堂に　久留米で「坂本繁二郎展」
1022	朝日	1982年07月13日	夕	坂本展'82	源弘道編集委員	回想　坂本繁二郎　生誕百年展に寄せて　(6)　八女と月　自然の中に腰据えて
1023	西日本	1982年07月13日		坂本展'82	樋口寿恵子	坂本繁二郎と私　好好爺だった画伯
1024	朝日	1982年07月14日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　月の連作六枚ずらり
1025	西日本	1982年07月14日		1982-4	山上隆之輔	〈石橋美術館だより〉　坂本繁二郎《北茂安の一部》　第一回文展の入選作　自然そのままの写真風景
1026	西日本	1982年07月14日		坂本展'82	春野三男	坂本繁二郎と私　ざっくばらんな面も
1027	西日本	1982年07月14日		坂本展'82		きょうから繁二郎写真展　八女市の樋口文化学院　新婚時代や孫と遊ぶ姿も
1028	フクニチ	1982年07月14日		坂本展'82		きょう命日　よみがえる坂本画伯　ゆかりの地で写真・版画展　八女の樋口文化学院　“もっと先生知って”
1029	読売	1982年07月14日		坂本展'82		珍しいスナップなど120枚　今日から　繁二郎しのぶ写真展
1030	朝日	1982年07月15日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　八女で写真と版画展
1031	西日本	1982年07月15日		坂本展'82		におうような少女像も　石橋美術館の坂本繁二郎生誕百年記念展
1032	西日本	1982年07月15日		坂本展'82	下川都一朗	坂本繁二郎と私　不幸な人に優しい
1033	西日本	1982年07月15日		坂本展'82		素顔の繁二郎に人気　樋口文化学院　写真と版画展始まる
1034	毎日	1982年07月15日		坂本展'82		もう一つの坂本繁二郎展　ゆかりの八女・樋口文化学院　命日しのんで
1035	読売	1982年07月16日	夕	1982-4		〈展覧会案内〉　フジカワ画廊創業45周年記念展
1036	朝日	1982年07月17日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　観能の礼状みつかる
1037	西日本	1982年07月17日		坂本展'82	吉原善吾	坂本繁二郎と私　25年に「語る会」開く
1038	フクニチ	1982年07月17日		1982-4		〈展覧会散歩〉　フジカワ画廊創業45周年記念展
1039	西日本	1982年07月18日		坂本展'82	木村晃郎	坂本繁二郎と私　本当は話の好きな人
1040	読売	1982年07月19日		1982-4		繁二郎しのび茶会　生誕百年で八女文化連盟
1041	西日本	1982年07月20日		坂本展'82	堤むつ子	坂本繁二郎と私　気取らぬ“おじいさん”
1042	フクニチ	1982年07月20日		1982-4		〈展覧会案内〉　生誕百年記念・坂本繁二郎展
1043	朝日	1982年07月21日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　絵筆・能面など遺品も

1044	西日本	1982年07月21日		1982-4	山上隆之輔	〈石橋美術館だより〉　坂本繁二郎《新聞》　新妻のういういしさ　温かい日常生活の中から
1045	西日本	1982年07月22日		坂本展'82	松田久彦	坂本繁二郎と私　天皇さんにホラ吹いた
1046	毎日	1982年07月22日	夕	坂本展'82	晴	代表作，まんべんなく　坂本繁二郎展
1047	朝日	1982年07月24日	夕	坂本展'82	二宮冬鳥	〈文化〉　坂本繁二郎が「会心の作」といった絵　感動的だった作品との出会い
1048	西日本	1982年07月24日		坂本展'82	平島忠太郎	坂本繁二郎と私　坂本が二人できた
1049	西日本	1982年07月28日		坂本展'82	秋山朗異	坂本繁二郎と私　やさしい人間味感じる
1050	読売	1982年07月28日	夕	坂本展'82	健	〈美術〉　坂本繁二郎展　生涯変らない厳しい自己追求
1051	朝日	1982年07月29日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　ドイツの青年が見学
1052	西日本	1982年07月30日		坂本展'82	坂宗一	坂本繁二郎と私　ミレーをよく見給え
1053	読売	1982年07月30日		坂本展'82		坂本繁二郎の版画みつかる　表紙の装画に　「桜花マーク」が決め手　初期の作品
1054	朝日	1982年07月31日		1982-4		私論　青木繁と坂本繁二郎　松本清張　新潮社版〈広告〉
1055	朝日	1982年07月31日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　扇谷正造さんが訪れる
1056	西日本	1982年07月31日		坂本展'82	川村護市	坂本繁二郎と私　“純粋だけが絵でない”
1057	西日本	1982年08月01日		坂本展'82	杉森麟	坂本繁二郎と私　大自然人で大哲人
1058	読売	1982年08月03日		1982-4		明治の水彩画の妙を紹介
1059	西日本	1982年08月04日		坂本展'82	田中昇	坂本繁二郎と私　薫夫人にお茶習う
1060	西日本	1982年08月05日		坂本展'82	落合精一	坂本繁二郎と私　提案うけた文化会館建設
1061	西日本	1982年08月07日		坂本展'82	杉山洋	坂本繁二郎と私　私の人生に指針
1062	西日本	1982年08月10日		坂本展'82	園田真幸	坂本繁二郎と私　心に残る励ましの言葉
1063	朝日	1982年08月11日		坂本展'82		坂本繁二郎展だより　巨匠に油絵教えた！　森三美の伝記まとめる　久留米画壇の草分け　「源流を明らかに」　内科医の松本茂さん
1064	西日本	1982年08月11日		1982-4	山上隆之輔	〈石橋美術館だより〉　坂本繁二郎《うすれ日》　“沈思”にひき込む牛　坂本芸術前期の記念的作品
1065	西日本	1982年08月12日		坂本展'82	佐藤巌	坂本繁二郎と私　「名誉落選」のこと
1066	朝日	1982年08月13日		坂本展'82		坂本繁二郎展　美術ファンで大にぎわい　地味な画風に深い感銘
1067	西日本	1982年08月13日		坂本展'82	白山忠士	坂本繁二郎と私　尺八を愛した画伯
1068	西日本	1982年08月13日		坂本展'82		坂本繁二郎写真展から　人間味あふれる素顔　一枚一枚に日付や場所も
1069	西日本	1982年08月14日		坂本展'82	鶴重行	坂本繁二郎と私　散髪は丸刈り
1070	西日本	1982年08月16日		坂本展'82		坂本繁二郎展　あと一週間　名画群にうっとり
1071	西日本	1982年08月18日		1982-4	山上隆之輔	〈石橋美術館だより〉　坂本繁二郎《母仔馬》　親子の情愛描く　自由な放牧馬みれば人がみじめ
1072	西日本	1982年08月19日		坂本展'82	中山茂	坂本繁二郎と私　プロ画家に厳しい批判
1073	朝日	1982年08月20日		坂本展'82		名残惜しむファン　坂本繁二郎展
1074	西日本	1982年08月20日		坂本展'82	松延繁太	坂本繁二郎と私　文化の振興願う
1075	西日本	1982年08月20日		坂本展'82		22日に閉幕　坂本繁二郎展

1076	西日本	1982年08月22日		坂本展'82	二宮冬鳥	坂本繁二郎と私　巨木が自然に命終えて
1077	西日本	1982年08月22日		坂本展'82	江島和男	坂本繁二郎と私　戻ってきた「牛」
1078	西日本	1982年08月22日		坂本展'82		三万四千人が鑑賞　「坂本繁二郎展」きょうまで
1079	朝日	1982年08月23日		坂本展'82		坂本繁二郎展　石橋美術館　きょうがいよいよ最終日
1080	読売	1982年08月25日		坂本展'82		夏休みギャラリー　石橋美術館　(8)　馬の坂本　絵に哲学があり，底光りする
1081	西日本	1982年09月01日		1982-5	山上隆之輔	坂本繁二郎展を終えて
1082	朝日	1982年09月06日		1982-5		得意の推理に強引さも　松本清張著　『私論／青木繁と坂本繁二郎』
1083	西日本	1982年09月06日	夕	1982-5	古賀	「私論・青木繁と坂本繁二郎」めぐって　松本清張氏にインタビュー
1084	朝日	1982年10月04日	夕	1982-5	松本清張	芸術家の対立　批判に偏見があってはならぬ
1085	読売	1982年10月11日		1982-5		坂本繁二郎画伯知られざる横顔　未公開資料を公開　あすから八女市で
1086	朝日	1982年10月13日		1982-5		新発見の版画など120点　八女で坂本繁二郎資料展
1087	フクニチ	1982年10月13日		1982-5		“若き繁二郎”意外な資料　挿絵やマンガ120点　八女を記録する会が生誕百年記念展
1088	毎日	1982年10月13日		1982-5		繁二郎のすべて　八女市町村会館で「資料展」　初公開の版画も　初日からにぎわう
1089	西日本	1982年10月15日		1982-5		〈カメラスケッチ〉　もう一つの繁二郎作品群　漫画，挿絵，装丁本　「生誕百年記念・坂本繁二郎資料展」　天性の才能発揮　八女市
1090	毎日	1982年10月19日		1982-5		自筆の掛軸や俳句も　坂本繁二郎展終わる
1091	読売	1982年10月21日		1982-5		坂本画伯が句作　八女で句誌発見　三木露風が12句紹介
1092	朝日	1982年10月26日		1982-5		アサヒグラフ　別冊　美術特集　坂本繁二郎　〈広告〉
1093	毎日	1982年10月30日		1982-5		新潮社　私論　青木繁と坂本繁二郎　松本清張　〈広告〉
1094	西日本	1982年11月07日		1982-6		繁二郎と寒蘭と(筑後)　〈展覧会紹介〉
1095	西日本	1982年11月10日		1982-6	深谷保一	〈随筆〉　石橋美術館コレクションと坂本繁二郎
1096	毎日	1982年11月13日	夕	1982-6	岩田礼	坂本繁二郎「肉弾三勇士」考
1097	西日本	1982年11月17日		1982-6	中村一松	〈随筆〉　坂本画伯と少年　ある人の思出話から
1098	読売	1983年02月05日	夕	青木展'83		青木・坂本に新説
1099	読売	1983年02月15日	夕	1983-1	健	美を訪ねて　(5)　坂本繁二郎の「放牧三馬」　石橋美術館　逝去の4年前修整加筆する
1100	朝日	1983年02月28日		1983-1		郷土出身画家展　坂本画伯の5点も　石橋美術館長が記念講演　八女
1101	西日本	1983年03月01日		1983-2		坂本芸術の理解を　繁二郎生誕百年の記念事業　八女市　「箱」の複製画を配布
1102	朝日	1983年03月10日		1983-2		故坂本画伯複製画　市内全世帯に配る　モチーフの名作「箱」　八女市が生誕百年記念に
1103	西日本	1983年04月14日		1983-2		清力美術館が再開へ　大川市　4年ぶり今月末から

1104	西日本	1983年04月20日		1983-2		新筑後博物誌　(12)　建造物編　清力美術館　四年ぶりに月末に再開　郷土の名棟梁の傑作建物
1105	読売	1983年04月20日		1983-2		青木繁の名画再び…　大川の清力美術館4年ぶり開館
1106	フクニチ	1983年04月30日		1983-2		帰って来た“町の美術館”　清力美術館　4年ぶり再開
1107	毎日	1983年05月01日		1983-3		改修終え4年ぶり再開　大川の清力美術館　名作含む30点展示
1108	西日本	1983年05月02日		1983-3		清力美術館　4年ぶりに復活　絵画ファンにこたえる
1109	西日本	1983年05月08日		1983-3	中村善勇(談),吉村信二記者(聞き手)	〈ちくご対談〉　大川の文化向上に尽力　里子が戻った喜び　青木，坂本らの名作も
1110	読売	1983年08月31日	夕	1983-4	日野耕之祐	坂本繁二郎と青木繁　回想・九州出身の洋画家
1111	西日本	1983年09月07日		1983-5	杉森麟	〈随想〉　坂本繁二郎画伯との交流　花田芳雄個展に寄せて
1112	朝日	1983年10月08日	夕	1983-6		佐賀県立美術館がオープン
1113	フクニチ	1983年11月01日		1983-7		故坂本画伯，東京時代に描く　口絵掲載の本「大菩薩峠」見つかる
1114	毎日	1983年11月01日		1983-7		ゆかりの巨匠を偲ぶ　坂本繁二郎画伯　帰居祭　新しくみつかった「大菩薩峠」の口絵も展示　3日，八女中央公民館で
1115	読売	1983年11月01日		1983-7		坂本繁二郎画伯の版画原画みつかる
1116	西日本	1983年11月04日		1983-7		繁二郎をしのび献花　帰居祭　画伯ゆかりの人ら参列
1117	読売	1983年11月30日	夕	1983-7		〈手帳〉　国宝・重文含め120点
1118	西日本	1984年02月23日		1984-2		銀行ロビーで坂本繁二郎版画展
1119	読売	1984年02月23日		1984-2		繁二郎の版画を展示
1120	毎日	1984年02月24日		1984-2		一味違った繁二郎
1121	西日本	1984年03月30日		1984-3		秋に「日本近代洋画展」　えりすぐった百点　市制95周年記念に　石橋財団が久留米で
1122	毎日	1984年05月27日		1984-5		〈いってみませんか〉　清力美術館　筑後の大画家群像が…
1123	読売	1984年06月06日		1984-6		青木繁　藤島武二　岸田劉生　黒田清輝　日本洋画界の巨匠　ズラリ　久留米市制95周年美術展　石橋美術館に106点
1124	朝日	1984年06月21日		1984-6		頑張る民間の清力美術館　再開1年で来館8,000人　青木・坂本・東郷らの絵鑑賞
1125	読売	1984年06月22日	夕	1984-6	健	岡田三郎助の大作も　第2回素晴らしい巨匠たちの珍品展
1126	西日本	1984年07月03日		1984-7	成松記者(聞き手)	聞き書きシリーズ　沸々たる静謐　宇治山哲平　(26)　坂本繁二郎
1127	西日本	1984年07月11日		1984-7		〈石橋美術館だより〉　特別展「日本洋画の三代―明治・大正・昭和―」より　(2)
1128	日本経済	1984年08月15日		1984-8	野見山暁治	〈美の美〉　坂本繁二郎　帽子を持てる女
1129	西日本	1984年08月17日		1984-8		坂本繁二郎世に出す　久我五千男　〈死亡欄〉
1130	西日本	1984年08月20日	夕	1984-8	谷口記者	坂本画伯からキリシタン美術へ―久我五千男氏を悼む

1131	フクニチ	1984年08月27日		1984-8		日本洋画の三代(明治，大正，昭和)展　来月22日から石橋美術館
1132	読売	1984年09月05日		1984-9		青木繁　坂本繁二郎　古賀春江　郷土出身画家の作品一堂に　45人の106点を展示　22日から「日本洋画の三代」　石橋美術館
1133	朝日	1984年09月21日		1984-9		あすから日本洋画三代展　青木繁など45人の作品106点　久留米・石橋美術館
1134	読売	1984年09月23日		1984-9		「日本洋画三代展」始まる　久留米・石橋美術館　美術ファンでにぎわう
1135	フクニチ	1984年09月24日		1984-9		明治，大正，昭和の力作ズラリ　久留米で　「洋画三代展」
1136	西日本	1984年09月28日		1984-9		日本洋画の三代―明治・大正・昭和―展　石橋コレクション一堂に　来月28日まで　石橋美術館
1137	西日本	1984年11月07日		1984-11		坂本画伯をたたえ「帰居祭」
1138	日本経済	1984年12月10日		1984-12	藤田吉香	〈美の美〉　坂本繁二郎　立石谷
1139	読売	1984年12月21日		1984-12		故坂本画伯の遺品展示　八女市立図書館が完成
1140	西日本	1985年01月05日		1985-1		新春飾る文化展　繁二郎ゆかりの155点　きょうから新築の八女市立図書館
1141	西日本	1985年01月06日		1985-1		市立図書館オープン　記念に「坂本繁二郎特別展」　八女市
1142	フクニチ	1985年01月06日		1985-1		足取りたどる坂本繁二郎展　「資料室」開設を記念　八女市立図書館　未発表作など展示
1143	読売	1985年01月06日		1985-1		市立図書館できたゾ　記念の坂本繁二郎展も好評　八女
1144	毎日	1985年01月10日	夕	1985-1	晴	〈美術〉　九州の版画展　逸材輩出，版画時代の先駆
1145	フクニチ	1985年01月12日		1985-1	太田美穂子記者	〈展覧会散歩〉　中世から現代まで　九州の版画展　～その用と美～
1146	西日本	1985年01月14日	夕	1985-1		〈文化〉　「用と美」の立体構成　27日まで福岡市美術館　九州の版画展
1147	毎日	1985年01月20日		1985-1		〈いってみませんか〉　坂本繁二郎資料室　画業の幅広さ物語る
1148	朝日	1985年01月30日	夕	1985-1		〈展覧会〉　坂本繁二郎資料室新設記念展
1149	西日本	1985年02月16日		1985-2		福岡県文化会館　坂本繁二郎の珠玉作購入へ　「能面」と「石」　改称「県美術館」の目玉に
1150	朝日	1985年02月23日		1985-2		福岡県，購入へ1億円　地元作家の美術品収集に本腰　坂本繁二郎の「能面」と「石」
1151	西日本	1985年03月09日		1985-3		〈ギャラリー〉　繁二郎の「放牧二馬」も　福岡が生んだ洋画家たち
1152	朝日	1985年03月29日	夕	1985-3		〈点描〉　れい明期の日本洋画　“本家”欧州で初展示
1153	日本経済	1985年04月01日		1985-4		〈文化往来〉　伊，独で日本近代洋画展
1154	フクニチ	1985年04月04日		1985-4		坂本繁二郎の名画2点　県立美術館(11月開館)に展示へ　油彩《能面》　水彩《石》　県教委，近く購入
1155	読売	1985年04月14日		1985-4		坂本繁二郎の2作品購入　県文化会館　《能面》《石》　美術館に衣替え後の目玉に

1156	毎日	1985年07月09日		1985-7	杉山洋	〈筑後文化〉　帰居庵　坂本繁二郎
1157	読売	1985年09月07日		1985-9		14日から坂本繁二郎版画展　石橋美術館　初期から晩年の20余点
1158	読売	1985年09月15日		1985-9		繁二郎の版画30点展示　石橋美術館　最後の作品「馬」も
1159	日本経済	1985年09月16日		1985-9	滝悌三編集委員	調子高い　再興院展七十年の歩み展　変化に富む二科回顧展
1160	毎日	1985年09月17日	夕	1985-9		坂本繁二郎展　3カ月も閉鎖　八女市立図書館　工事ミス?で雨漏り
1161	毎日	1985年09月17日		1985-9		石橋美術館で繁二郎版画展
1162	フクニチ	1985年09月22日		1985-9		久留米で「坂本繁二郎版画展」
1163	フクニチ	1985年10月16日		1985-10		棟方志功や繁二郎の版画　久留米井筒屋　あすから「チャリティーバザール」
1164	西日本	1985年11月03日		1985-11		坂本画伯の頭像を寄贈　横浜の彫刻家今里龍生さん
1165	西日本	1985年11月04日		1985-11		坂本画伯像前で帰居祭　八女市出席の百五十人が献花
1166	フクニチ	1985年11月04日		1985-11		美術館がオープン　前「文化会館」装いも新た　郷土ゆかりの23氏作品　現代美術の記念展
1167	フクニチ	1985年11月06日		1985-11		「坂本繁二郎資料室」が再開　八女市立図書館
1168	西日本	1985年11月08日		1985-11		坂本繁二郎資料室の公開再開　師の小山氏の作品も展示
1169	朝日	1985年11月19日		1985-11		「パリを描いた日本人画家」展　来月3日からパリで　55人の100点集めて　〈社告〉
1170	西日本	1985年11月23日		1985-11		〈ギャラリー〉　巨匠たちの作品250点　第14回現代洋画展
1171	フクニチ	1985年11月27日		1985-11		繁二郎の「筑紫五景」　節水カレンダー配布
1172	西日本	1986年01月29日		1986-1		「海の幸」「放牧三馬」「針仕事」　洋画の絵はがきベスト3　石橋美術館　昨年の販売実績
1173	朝日	1986年01月30日	夕	1986-1	大西克寛編集委員	伝わる豊かな感受性と熱情　「パリを描いた日本人画家」展　「異国趣味に流れず」と好評
1174	西日本	1986年02月10日	夕	1986-2		70周年記念の二科展　11日－16日　福岡市美術館で　4部門　約450点　郷土作家の回顧展も
1175	西日本	1986年02月13日	夕	1986-2	谷口編集委員(聞き手)	自由で清新な二科展　吉井淳二理事長に聞く　常に美術界の先端に　歴史は70年，精神は青春
1176	読売	1986年02月14日	夕	1986-2	健	〈美術〉　70周年迎えた二科展　活躍した10人の遺作も
1177	日本経済	1986年03月13日		1986-3	小杉小二郎	物語る自画像十選　(8)　坂本繁二郎　自像
1178	読売	1986年04月09日	夕	1986-4		〈美術〉　誘い込まれる味に魅力　洋画小品展
1179	フクニチ	1986年04月12日		1986-4	進	〈ずーむあっぷ〉　坂本暁彦さん　祖父の名に負けぬ仕事を
1180	西日本	1986年04月20日		1986-4		〈春秋〉　「セーヌ川の魚釣ってみましたか」と昭和七年，八女市に住む坂本繁二郎画伯はパリ留学中の田崎廣助画伯への手紙に書いた。…
1181	西日本	1986年05月23日		1986-5		闘病の絵筆60年　坂本画伯に師事し実力　28日から久留米岩田屋　真藤アヤさん初個展

1182	フクニチ	1986年05月26日		1986-5		繁二郎の心を水墨画に　八女の杉森さんが個展
1183	フクニチ	1986年05月31日		1986-5	阿部信雄	近代洋画再考　(4)　第1部　それぞれの西欧体験　(4)　広い世界を離れて内閉　坂本繁二郎「帽子を持てる女」
1184	フクニチ	1986年06月15日		1986-6		セザンヌや繁二郎など180点　あすまで久留米井筒屋　現代洋画秀作展
1185	西日本	1986年06月20日		1986-6		清力美術館が25日閉館　管理費かさみ　繁二郎らの名作どこへ　大川
1186	西日本	1986年06月23日		1986-6		〈社説〉　清力美術館の閉館を惜しむ
1187	朝日	1986年06月24日	夕	1986-6		青木繁・繁二郎の作品展示　清力美術館あす閉館　清酒離れで維持困難に
1188	西日本	1986年09月18日		1986-9		坂本画伯しのぶ図画作品展
1189	朝日	1986年12月13日	夕	1986-12	林	〈土曜サロン〉　尊敬する画家二人を追った竹藤寛さん　芸術への根元的執念を見る
1190	毎日	1987年01月13日	夕	1987-1	河北倫明	〈文化〉「青木繁・坂本繁二郎とその友」を読んで
1191	朝日	1987年01月27日		1987-1		青木繁・坂本繁二郎とその友　竹藤寛著
1192	日本経済	1987年02月22日		1987-2		坂本繁二郎水彩画集　〈新刊解説〉
1193	読売	1987年04月27日	夕	1987-4	山上隆之輔	〈リレー随筆　私の原風景〉　坂本繁二郎との出会い　作品に哲学と宗教　今生きる巨匠の心
1194	西日本	1987年05月10日		1987-5		〈画廊〉　近代洋画秀作展
1195	西日本	1987年06月28日		1987-6	杉本秀子	評価築いた友人たち　青木繁・坂本繁二郎とその友　竹藤寛著
1196	西日本	1987年11月04日		1987-11		坂本画伯しのび帰居祭　八女文化連盟が開く　作文朗読や詩吟献奏　少年少女合唱団の歌も
1197	西日本	1988年01月22日		1988-1		「繁二郎」の贋作はんらん　県内に多数偽鑑定つき　郷土の巨匠が泣いている　水彩「放牧三馬」
1198	読売	1988年01月26日	夕	1988-1	秋	〈美術〉　作家の別の顔のぞく　「日本の四季」展　78人が“競演”
1199	西日本	1988年02月05日	夕	1988-2	菊畑茂久馬	絶筆いのちの炎　郷土の画家たちの生涯　(23)　坂本繁二郎「幽光」　近代化の光が生む影を歩く
1200	西日本	1988年02月10日		1988-2		「繁二郎」作　東京でもニセモノ　今度はデッサン画　鑑定書も本物とそっくり
1201	朝日	1988年03月05日	夕	1988-3		〈アート〉　風土と美術の関係は
1202	西日本	1988年03月17日	夕	1988-3		筑前，筑後　画風を対比　「イメージの風土学」展　県立美術館
1203	毎日	1988年03月17日	夕	1988-3	徹	筑前・筑後の近代画家を比較　イメージの風土学展　19日から福岡県立美術館
1204	西日本	1988年03月19日	夕	1988-3		筑前，筑後の画風比較　県立美術館「イメージの風土学」展
1205	西日本	1988年03月23日	夕	1988-3	西本匡伸	イメージの風土学　美に見る筑前と筑後　(2)　表現形態　量感と実在感　中村研一《サイゴンの夢》　坂本繁二郎《巴里の乞食》
1206	朝日	1988年04月01日	夕	1988-4	源	〈美術〉　自然の及ぼす影響を探る　「イメージの風土学」展　福岡県立美術館

1207	西日本	1988年04月05日	夕	1988-4	後藤耕二	〈美術〉 風土と美術　すべて見せる「砂」の筑前　奥深い象徴性「泥」の筑後―「イメージの風土学」展に寄せて
1208	読売	1988年04月08日	夕	1988-4	持	〈美術〉 “川”の筑後と“海”の筑前　豊かな人脈，多彩な画風　「イメージの風土学」展
1209	西日本	1988年04月09日		1988-4		巨匠版画展　(柳川)
1210	西日本	1988年05月26日	夕	1988-5	路蘭	〈風車〉 新緑の中，けしけし山に登る
1211	西日本	1988年07月30日	夕	1988-7		他界で再会　坂本繁二郎氏　山本健吉氏　文化勲章の2人　無量寿院に埋葬―八女市
1212	朝日	1988年09月02日		1988-9		展覧会　大型店　福岡玉屋　5日まで　坂本繁二郎小品展　〈告示〉
1213	毎日	1988年09月09日		1988-9		繁二郎直伝の油彩
1214	読売	1988年09月10日	夕	1988-9	杉森麟（談）	繁二郎の偉大さに感慨新た
1215	朝日	1988年10月08日		1988-10-1		全国ひっぱりだこ　石橋美術館名品展　熊本で14館目
1216	西日本	1988年11月04日		1988-11		偉業讃え朗読や合唱　坂本画伯しのび帰居祭　八女
1217	朝日	1988年11月17日		1988-11		著名文化人ずらり　著名な文化人の肖像写真を撮り続けている片山攝三・九州産業大写真学科教授の回顧展「わが邂逅」が十六日，久留米市東和町の来目館画廊で始まった。…
1218	毎日	1988年11月18日		1988-11		芸術家肖像写真展
1219	西日本	1989年01月05日		1989-1		「静物」を公開　繁二郎版画展　きょうから市立図書館　八女
1220	日本経済	1989年01月18日		1989-1		名画に見る昭和―そのあけぼの　(8)　坂本繁二郎《放牧三馬》
1221	朝日	1989年02月28日		1989-2		〈スポット〉 繁二郎しのぶ写真展　あすから市立図書館で　八女市
1222	毎日	1989年03月05日		1989-3		坂本画伯しのぶ　写真パネル展
1223	西日本	1989年04月11日		1989-4		〈ギャラリー〉 回顧・昭和巨匠版画展　大家の作品50余点
1224	読売	1989年04月12日		1989-4		日欧巨匠の作品ズラリ　「近代絵画の流れ展」きょうから　県立美術館
1225	読売	1989年04月13日	夕	1989-4	西本匡伸	近代絵画の流れ　(3)　坂本繁二郎「牛」
1226	毎日	1989年04月27日	夕	1989-4		FBSがコレクションを初公開　近代絵画を幅広く
1227	西日本	1989年05月02日	夕	1989-5		〈展覧会〉 近代絵画の流れ展　多彩なコレクション
1228	西日本	1989年05月22日		1989-5	石牟礼道子	鬼気せまる阿修羅の文　絶筆　いのちの炎　菊畑茂久馬著
1229	フクニチ	1989年10月11日		1989-10		〈ふるさとの博物館〉 八女市立図書館坂本繁二郎資料室　さまざまな画法を駆使　“竹馬の友”青木繁の作品も
1230	フクニチ	1989年11月15日		1989-11		〈ふるさとの博物館〉 福岡市美術館　年間入館者80万人　黒田，松永記念室は必見
1231	読売	1989年11月15日	夕	1989-11	秋	〈美術〉 モノクロ50年の軌跡　片山攝三写真展　えりすぐりの傑作166点展示

1232	読売	1989年11月18日		1989-11		八女市の坂本繁二郎作品複製　「落款見えぬ」サイン印刷　800人に配布
1233	フクニチ	1989年11月29日		1989-11		〈ふるさとの博物館〉　福岡県立美術館　「見る」から「知る，使う」へ　来春には浮世絵展
1234	西日本	1989年12月02日	夕	1989-12	杉森麟	坂本繁二郎と中島哀浪
1235	朝日	1990年01月12日	夕	1990-1		〈展覧会〉　館蔵品による坂本繁二郎と近代作家たち展
1236	西日本	1990年01月15日		1990-1		繁二郎の未公開作品２点　「郊外風景」「黄菊白菊」　福岡県立美術館で展示
1237	フクニチ	1990年01月20日		1990-1	後藤耕二(談)	話題呼ぶ坂本繁二郎の新出作初公開　福岡県立美術館の平成２年常設展　(1)
1238	西日本	1990年01月23日		1990-1		〈ギャラリー〉　坂本繁二郎と近代作家たち展　郷土色濃い70余点
1239	西日本	1990年03月13日	夕	1990-3	谷口治達	〈文化〉　もう一人の画家・平嶋信　青木・坂本の若き日の友　(上)　穏和静寂の風景画　青木繁に学費援助も
1240	西日本	1990年03月14日	夕	1990-3	谷口治達	〈文化〉　もう一人の画家・平嶋信　青木・坂本の若き日の友　(下)　生涯一度の個展後死去　脚光を浴びることもなく
1241	日本経済	1990年05月31日		1990-5	松本英一郎	雲のある風景十選　(3)　坂本繁二郎《月》
1242	読売	1990年06月01日	夕	1990-6	秋	〈美術〉　巨匠の未公開作中心に　福岡県立美術館新収蔵品
1243	読売	1990年06月17日		1990-6		現代洋画展，１億9000万円の作品も
1244	フクニチ	1990年09月05日		1990-9		〈ふるさとの博物館〉　石橋美術館　青木繁や坂本繁二郎九州近代画家中心に
1245	毎日	1990年09月23日		1990-9		〈わが街建物散歩〉　石橋美術館　九州先駆けの重厚さ
1246	読売	1990年11月07日		1990-11		「近代絵画の流れ展」開幕　熊本　西洋，日本の巨匠一堂に
1247	朝日	1990年11月09日		1990-11		久留米市民図書館に郷土の文学資料２千400冊寄託　久留米連合文化会　「せせらき集」「眼花集」　高島宇朗の詩集も
1248	読売	1990年11月16日	夕	1990-11	福島次郎	〈文化〉　「近代絵画の流れ展」を見て　開拓期の祈りと闘い　東西の個性，咲き競う

ブリヂストン美術館

所在地　東京都中央区京橋1-10-1（〒104）
TEL. (03) 3563-0241
開館時間　4月－10月　午前10時－午後6時
11月－3月　午前10時－午後5時30分
休館　毎月曜日　年末年始（12月28日－1月4日）
入場料　個人：
一般 500円　大・高生 400円　中・小生 200円
団体（15名以上）：
一般 400円　大・高生 300円　中・小生 150円
なお，特別展の場合は変更することがある。

Bridgestone Museum of Art

Address　10-1, Kyobashi 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 104, Japan
Phone: (03) 3563-0241
Museum Hours　Open daily except Monday
10:00a.m.－6:00p.m. (from April through October)
10:00a.m.－5:30p.m. (from November through March)
Closed from December 28 to January 4
Admission　Adults ¥500
Students ¥400
Children under 15 ¥200

石橋美術館

所在地　福岡県久留米市野中町1015（〒839）
TEL. (0942) 39-1131
開館時間　4月－9月　午前9時30分－午後5時30分
10月－3月　午前9時30分－午後5時
休館　毎月曜日　年末年始（12月28日－1月4日）
入場料　個人：
一般 300円　大・高生 200円　中・小生 150円
団体（20名以上）：
一般 250円　大・高生 150円　中・小生 80円
なお，特別展の場合は変更することがある。

Ishibashi Museum of Art

Address　1015, Nonaka-machi, Kurume-shi, Fukuoka-ken 839, Japan
Phone: (0942) 39-1131
Museum Hours　Open daily except Monday
9:30a.m.－5:30p.m. (from April through September)
9:30a.m.－5:00p.m. (from October through March)
Closed from December 28 to January 4
Admission　Adults ¥300
Students ¥200
Children under 15 ¥150

石橋財団職員

常務理事		大原　譲

事務局

局長		朝比奈仙二
		渡辺　瞳
		押本　仁子
		小原田鶴子
		石黒　経子
		土屋　益子

ブリヂストン美術館

館長		石榑　和夫
事務部	事務部長	尾島　聰
		中村　邦子
		野村　芳雄
		加藤田裕敏
		渡辺　清美
		青柳　真子
		金子　伸子
		原　永子
		石川　久子
学芸部	学芸課長	宮崎　克己
		中田　裕子
		吉城寺尚子
		塚田美香子
		田中　千秋
		貝塚　健
		中村　節子

石橋美術館

館長		中川　洋
事務部	事務部長	平井麟之輔
		野田　朋子
		富松　弘美
		後藤　純子
		原　朋子
学芸課	学芸課長	田内　正宏
	学芸課・課長	橋富　博喜
		杉本　秀子
		植野　健造
		平間　理香

1996年3月31日現在